

村合併して各務原市となる  
市制実施とともに各務原市立鶴沼  
第一小学校と改める  
学級数一八、児童数八〇二  
各務原市制施行祝賀会挙行  
学童校下旗行列

昭和三八、一〇、二六  
本校創立九十周年記念  
学校図書館完成式典挙行

昭和三八、一一、一四  
環境整備事業として体育館東側に  
掛斐川の石を購入し石庭園を造る  
岐阜県庁大会議室において学校花  
壇設計図コンクールに声の花だよ  
りコンクールにそれぞれ優秀賞、  
(一)種を受領(中日F、B、C六  
四年)

昭和三九、一一、八  
第十四回岐阜県学校図書館教育研  
究大会  
(本大会場於本校分会場於鶴沼中  
学)開催  
参加人員 六六六名大盛況裡に終  
了

昭和三九、一一、二七  
PTAけやき文庫開設(三九、八、  
二一)  
南東校舎二階建六教室老朽のため

昭和四〇、八、

昭和四〇、八、

取り壊き  
北舎東端二階建八教室(旧工専校  
舎)の内部を改造し、四年生三学  
級の教室に充当地は特別教室とす  
る  
改造費 五十万円也  
南舎一教室を保育所に貸与す  
南舎東端に便所新築  
工費 三十六万円也  
東海三県学校図書館コンクールに  
おいて最優秀賞(知事賞)受賞  
特殊学級一学級始めて開設さる  
運動場盛土整備され、PTAによ  
りタイヤ埋め込み完了す  
公民館条例施行され体育館は鶴沼  
中央公民館となる  
プールのフェンス、便所工事四日  
完成  
本年度交通安全教育岐阜地区推進  
校となる  
交通コーナ完成  
昭和四十三年十月二十五日着工  
面積 一、六〇〇平方米  
横断道路、信号機、踏切、警報機

昭和四〇、九、

昭和四〇、一一、

昭和四〇、一二、

昭和四一、五、一

昭和四一、八、

昭和四一、五

昭和四二、八、二

昭和四三、四、

昭和四三、一一、二五

昭和四三、一一、二一  
岐阜地区交通安全推進校として研  
究会開催  
一学級増加につき音楽室を普通教  
室に改造使用する  
岐阜テレビ一年生対象の交通安全  
指導状況取材、四月十八日午後  
一時五分より十五分間放送  
NHK交通安全指導状況(授業登  
下校)取材、四月二十九日放送  
交通安全功労につき、岐阜県庁に  
おいて岐阜県知事より表彰を受く  
記念品として青銅花瓶受領  
名古屋テレビ交通安全指導状況取  
材(企画県教委総務課)六月二十  
二日放送  
八月、十六ミリにおさめ、録音を  
テープにとり、寄贈を受く  
通信簿本年度より本校独自のもの  
を作製配布、三月より通知表委員  
会を設け屢々回を重ねて、研究し  
実施する。  
本校PTA活動について文部大臣

昭和四四、四、一八

昭和四四、四、一五

昭和四四、四、二八

昭和四四、五、一六

昭和四四、六、一三

昭和四四、七、二五

昭和四四、八、八

昭和四四、八、八

昭和四四、八、八

昭和四四、八、八

昭和四四、一一、一八  
健康優良学校準県一位として岐阜  
県教育委員会、岐阜県学校保健会  
朝日新聞岐阜支局より表彰を受く  
桶、鏡、副賞あり  
第一四回学研教育賞を受賞、主体  
的に行動する子を日誌した交通安  
全指導メダル、少年少女世界文学  
全集二十四巻、書棚つき、新世紀  
世界百科事典全一卷、奨励金、金  
武万円也寄贈あり  
交通安全優良校として全日本交通  
安全協会会長より表彰を受く  
校舎防音改築の設計にかかる  
教室不足のため保育園に教室借用  
(二七教室)

昭和四五、一、二〇

昭和四五、四、六

昭和四六、八、一七

昭和四六、九、一二

昭和四六、一〇、二〇

昭和四七、三、三〇

昭和四七、四、一

昭和四七、四、一

昭和四七、四、一

昭和四七、四、一

昭和四七、四、一

昭和四七、七、二〇 小プール完成  
 昭和四七、八、二八 防音改築第二期工事着工  
 昭和四八、三、一〇 第二期防音改築工事、普通教室十  
 四教室、資料室等十五教室完成、  
 総工費 八千八百六十六万円  
 昭和四八、九、十四 第三期防音改築工事地鎮祭挙行。  
 主として管理棟の建築にかかる。  
 総工費 一億三千八百万円



交通コーナーの一角



無心に遊ぶ子どもたち

### 鵜沼第二小学校沿革誌抜粋

明治二五、五 三ッ池尋常小学校を三池地内に新築す  
 明治四一、四 鵜沼小学校に合併、三ッ池分教場となる  
 大正一四、四 現在地(校地五七八坪)に移転増築し、四年生以下を収容  
 昭和二〇、七 戦災で焼失、分散授業を行なう  
 昭和二一、二 校地拡大(一〇五坪)  
 昭和二二、九 元兵舎を移築、西半分竣工  
 昭和二三、三 同兵舎の中央部改築  
 昭和二四、三 各務原分教場廃止  
 昭和二四、四 鵜沼第二小学校創立(校地六八三坪)  
 | 建築物 |  
 完成分校舎 三一五坪  
 炊事場 四坪  
 便所 九、六坪  
 校長住宅 二四坪  
 未完成校舎 一六六坪  
 校舎全部完成 創立祝賀式挙行(二四日)  
 昭和二四、九 炊事場拡張

昭和二五、五 バッジ制定  
 昭和二五、一二 東便所完成(九坪)  
 昭和二六、一 水道施設、手洗場、足洗場完成  
 昭和二六、二 主題「どのようにして学校環境を整備してきたか」のもとに研究発表会ひらく  
 昭和二六、九 運動場拡張(一一四六坪) 育友会奉仕作業で整地砂入をする  
 保育園舎(九八坪) 建設のため三〇〇坪貸与する  
 昭和二七、二 音楽教育について研究発表会を開く  
 昭和二七、一〇 育友会事業として国旗掲揚塔建設  
 昭和二八、一〇 校章制定  
 鵜沼第二小学校校舎・校地概要  
 一、校地 二四八八坪(内保育園地三〇〇坪を含む)  
 田分校用地 五七八坪 昭和二十一年三月拡張一〇五坪  
 昭和二十四年三月拡張 六五九坪  
 昭和二十六年一〇月拡張 一一四六坪  
 一、校舎 昭和二十二年着工、昭和二十四年六月完成  
 延坪 二四一、五五坪  
 延坪 四八一坪 炊事室 四坪 西便所 九、四坪 昭和二十一年完成  
 調理室 三坪 調理室土間 五、五坪 昭和二十



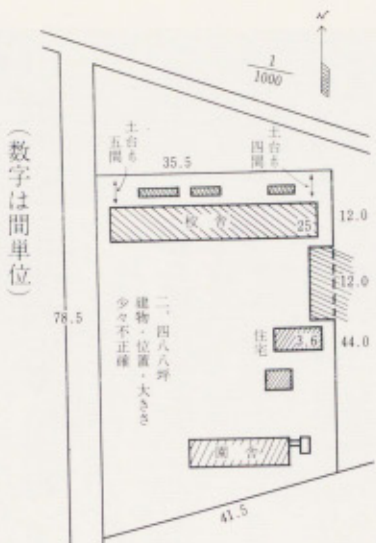
鶴沼第二小学校

南運動場 七五坪  
西運動場 二五坪  
北運動場 一〇二坪  
合計三〇〇坪

四年九月完成  
東便所 一一坪 器具倉五坪  
昭和二五年一月完成  
一、住宅 二四坪 昭和三年建築  
合計建坪三〇三、四五坪  
延坪 五四三坪  
一、保育園舎 昭和二六年九月  
旧第一校々舎移築 建坪九〇坪  
便所、渡り土間坪八

鶴沼第二小学校・校地図

原図役場保管の地図の複写  
昭和二八年九月三〇日現在



(数字は間単位)

昭和二八、一一 校長住宅売却  
昭和二九、三 創立五周年記念として主題「学習指導法の研究」のもとに研究発表会を開く  
昭和二九、三 非常階段設置(六、五坪) 体育器具舎改築  
昭和三〇、九 校舎の腐朽度はなほだしいため分散授業開始、五・六年鶴沼第一小学校四年鶴沼中学校、三年産業会館一、二年保育園  
昭和三〇、一〇 旧校舎売却  
昭和三〇、一一 新校舎建築に着手(木造平屋一六八坪、北舎二階 二八七、七四坪、渡廊下四ヶ所 二二三、七坪。合計 四七九、七四坪)  
昭和三一、一 新校舎竣工 校歌制定  
昭和三一、二 給食室工事着手工(三三、三三完了)  
昭和三一、三 完全給食実施  
昭和三一、六 給食室付属倉庫改装工事着手工(三三、八月完成)  
昭和三四、九 伊勢湾台風のため相当被害をこうむ

昭和三四、一〇  
昭和三五、六

西側児童便所工事完了  
校地拡張(八四一坪) 西保育園用として購入内一部を小学校校地として借用

昭和三六、五  
昭和三七、二  
昭和三七、四

プール工事起工式(三六、七竣工)  
育友会の奉仕で中庭庭園造り  
県教育委員会から図工科の研究の指定を受ける

昭和三七、一〇  
昭和三八、二

防音施設工事完了  
図工科研究中間発表会を開く  
主題「創造性を伸ばす工作的学習の計画と実践」  
各務原市立鶴沼第二小学校と改称(四町合併市制施行)

昭和三八、四  
昭和三九、八  
昭和三九、一一

体育器具庫及び農具舎建設  
学校花壇優良校として伊奈波地方事務所から表彰

昭和四〇、七  
昭和四〇、一一  
昭和四一、七  
昭和四一、一〇

特別教室建設着工  
特別教室完成(木造二階四〇一m)  
北門よりの道路完成  
運動場拡張整備  
体育器具庫及び農具舎移転  
小公園造成

昭和四二、一  
昭和四二、二

非常階段完成(特別教室二階)  
岐阜地区並びに各務原市道徳研究推進校として発表会を開く  
主題「ひとりひとりをみつめる道徳教育」

昭和四二、一一  
昭和四三、一  
昭和四三、六

学校安全努力校として、岐阜県学校安全会より表彰を受ける  
校地拡張のため土地買収完了  
プール周囲金網、監視所完成(二六万六千円)

昭和四四、二

温室建設  
校地拡張のため土地買収完了(伊藤氏宅 二九七、五二m)

昭和四五、三  
昭和四五、四  
昭和四五、九  
昭和四六、二

ジャンクルジム等遊具建設  
プレハブ校舎建設(三教室)  
新校舎建設着工  
校地拡張のため土地買収完了(果畑 五四三、九m)

昭和四六、四  
昭和四六、八  
昭和四七、七  
昭和四八、七

統計教育研究校に県より指定をうける  
鉄筋三階建校舎第二期工事竣工  
体育館竣工 八六九、七五m  
低学年プール竣工 予算一九五万円

## 昭和後期卒業生座談会

【司会者】

武藤 健一

【記録】

石田 洋吉

【出席者】

堀尾 義治

吉田せつ子

林 芳己

広江 幸夫

武藤 和子

伊神ち世子

林 平吉

横山 兼久

白兼よし子

加藤 経夫

伊神 弘

土屋 義彦

水谷 清子

今井 静夫

横山 直敏



座談会風景

堀尾 小学校への入学が十二年でしたので、けやきの木を中心にスバルタ教育を受けました。校舎は古かったがとてもきれいであったことが印象に残っています。

白兼 校舎の並び方が、上の運動場の東の方に奉安殿や二宮金次郎の像があったし、下の運動場は今のようになくなくて南北に工作室があって、桑の木が大きく並んでいてこわいぐらいだった。

吉田 下の運動場に、二階建ての校舎が南の方にあって一年生の時、その下の教室で勉強したことを覚えていません。

加藤 現在の職員室の二階建てができた時、ちょうど中学へ行く年であったので、一度も勉強ができないというので、教室の中へ入れてもらったことがある。

林 今言われた校舎へ、ちょうど入ることができてうれしかった。

白兼 古い校舎で、昭和十九年十二月の地震のとき、瓦がバラバラ落ちてきたこともあったし、選挙のときには、着物を着た人がおられたことを覚えていています。

司会 行事についての思い出がありましたら、お話しください。

伊神 遠足といっても食べ物がない時だったので、ふだん家で食べていたものより少しよい物を、持って出かけたものだった。

広江 夏休みに入ってから、八月七日のたなばたに各

部落ごとに、竹にかざってけやきのあたりへ集め、夜は映画をやったりして楽しんだことがあります。

土屋 小学校時代の前半は戦時中、後半は終戦の間にあって、遠足、修学旅行のような行事的記憶があまりない。

伊神 今、土屋さんが言われたことのように、ピンと頭に浮ばない。

吉田 その代わり学芸会の記憶があつて、南の校舎を全部ぬいてしまつて行なつたことを覚えています。

武藤 遠足の時など武運長久のお宮まいりを兼ねて、お弁当には、おにぎり三つ、やきいもなど持って歩いて行つたと覚えております。

白兼 戦時中で、はきものがなくて、みんなわらぞうりをはいて通つたが、新しいのをはいてくると、それがなくなる時代であつた。また、靴は配給で雨が降ると下駄かはだしの状態でした。雨が途中で降つた時など、背中まではねが上がりみじめでした。衣類では、ハーフコートやモンペなど木綿のものばかりでした。

水谷 私達の頃は、遠足の時には、リュックサックに入るだけなんでも持って行くことが、できたのでよかったです。

白兼 中味でもこれだけ違うんですね。私たちは六年生のお伊勢まいりも行けなかつたんです。

伊神 ちょうどこの運動場に大きな防空壕があつた。

空襲の時、体が大きくなって、入口までしか入れなかつたので、爆弾の落ちるところまで見ることが出来ました。

武藤 各部落ごとに防空壕があつたですね。小さい子を連れての避難が大変だったですね。

加藤 六年生や五年生にたたかれないながら、逃げたことがある。すぐ終戦になつたが、食糧難でさつまいもを食べていた。進駐軍が、ガム・キャンデー・チョコレートを持って学校へ来て、みんなに配ってくれたことが、印象に残っている。

司会 先生の思い出について、お話しください。

伊神 四年か五年の時の田中先生に、岐阜へ電車に乗つて映画を見に連れてってもらい、家でひどくしかられたことがある。

伊神(女) 今と違って先生方もんびりしていたし、一日中勉強しない日がよくあつた。だから先生がきついと、こわいの感覚がなかった。

堀尾 私たちの教育は「三歩さがって師の影を踏まず」で、先生は立派でえらい先生であると思つていました。

吉田 一年から五年生まで同じ先生で、松本先生という方だったが、美しく、やさしい先生でした。

林 やさしい先生という女の先生で、山田先生、きついいという松田先生があつた。

司会 きついい先生でも、戦前と戦後では質が違うと思うが、どうですか。

**武藤(女)** 教育勅語から始まっていた時代で、男子の体育はきびしい後藤先生が受け持たれていたし、女子は武道の時間にナギナタを持って、「エイヤー」の大きな声をしなないと、たたかれるといった教育を受けました。  
**白兼** 鶴沼西町の坂井先生や、長く学校におられた後藤先生が、きびしい先生で、やさしいと言えば、野村宗男校長先生でしょう。

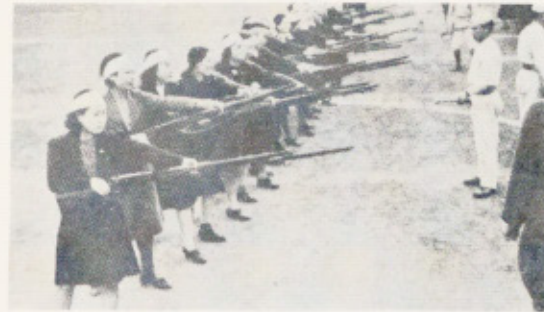
**堀尾** 野村校長先生は、校内を見て歩かれ、下駄のぬき方が悪いと、「これだれの下駄だね」と言っつて、驥面をきびしくされていた。

**司会** 家での学習は、どんなだったですか。

**林** 小学三年が終戦だった、三年まで毎日退避訓練などはかりで、家で勉強したことは殆んどない。

**土屋** 当時は学校で習うだけで充分であった。家に帰ってからの勉強など必要ではなく、手伝いばかりだった。

**伊神** 家に帰れば大きな防空壕が作ってあった



徹底した訓練のひとつ

ので、いつもその中で寝ていた。手伝いといえば、毎日のように風呂わかしばかりしていた。

**堀尾** 低学年の時は「軍人にならなければ」という時代であったが、戦争が激しくなってきたから、学校で勉強が出来なくなり、家での勉強を余儀なくされた。

**白兼** 灯火管制の世で、暗い電灯の下でミカン箱の上とか、寝床の中で勉強した。学校では、勉強があまりなく、じやり拾い、桑の皮むき、どんぐり拾い、などの割り当てに従って勉強を忘れてしまっていた。また、出征の時やお骨の帰る時には、旗を持って迎えに行ったり、農場へ行って大豆を作ったりの、奉仕作業ばかりであった。

**今井** 戦争がはげしくなり、危険だということ、部落で勉強したこともあった。

**伊神** 大伊木からは遠かったので、空襲となると、芋づるの中へもぐり込んで、避難したものだ。

**司会** どんな遊びをしましたか。

**土屋** 釘さし、パンコ、紙鉄砲、じんとりなどやっつて遊びました。

**司会** 女の方の遊びはどうでしたか。

**武藤** 毛糸の古いものを集めての、ちどり、貝がらやどんぐりなどおはじき、ままこと、はじきを使つてのじんとりもやりました。

**司会** 終戦の思い出について、お話ししてください。

**堀尾** 敗戦は中学時代で、日本は必ず勝てるものだという信念を持っていた。

**伊神** 日本が負けたという、記憶は持っているが、他は思い出せない。

**土屋** 終戦の時の天皇のことばを親たちは、直立不動の姿勢で聞いていたことを覚えている。

**伊神** 学校へ来る途中に兵隊さんが、大勢いたが、いなくなつたので、何かあったんだなと思つたくらいだった。

**加藤** 戦争が終わつたことを、母から聞いて安心した反面、進駐軍がきたり、中国人がいたので、小さい子はあまり出ないようにしていた。

**武藤** 戦争が終わつてやれやれと思いましたが、沢山いた捕りよが菊川の酒をとりきた時、私の家へ靴ばきで入つてきて、一升びんを持って行つたが、あの時ほどこわいことはなかった。

**今井** 先生が「日本が負けた、日本が負けた」と廊下を泣いて職員室の方へ、行かれたことを覚えている。

**伊神(女)** 私たちは戦争のことを知らない、終戦が三才でしたから……。

**横山** 私たちは実感がありませんね。ただ、終戦後に後藤別荘に進駐軍が来た時、こわいといつて家の中にかくれた事を覚えている。

**今井** 白人の進駐軍をはじめて見た時、赤鬼のように

見えたので、こわくて逃げましたね。

**司会** 広江さんは生まれてみましたか。

**広江** 十八年だから二才でした。進駐軍のことは、ガムなどをジープの中からくれたりしたので、こわいという感覚はない。

**司会** わんぱくをしたとか、叱られたりしたことがありますか。

**加藤** ベースボールをやるにもけやきがじゃまで、いつもけやきの木を倒すことを、みんなで真剣に考えたものだった。

**司会** 川などへ行って楽しい夏休みを、過ごされたことがありますか。

**伊神(女)** 毎日木曾川の小山へ行くと清水が出ていてみんなが泳ぎに行つたもので、朝から晩まで泳いでいたといつてよいぐらいです。



座談会のひとつ

**伊神** 我々の子どもの頃は、川で暮れていた。先輩についてどこでも行つたが、おぼれて死んだ者は一人もいない。おおちやくいことといえは、学校帰り肥だめの中へ石を投げ入れたりしたことです。

**横山** 大安寺川で服のまま泳いで、ずぶぬれで帰つたりした

ことがあった。

梅田 地藏様を夏休みにやって、男も女も一緒に楽しんだことがなつかしい。

林 今の水泳着の姿と違って、赤フンドシでやったものだ。

司会 西町や山崎の方は、山で遊ばれましたか。

武藤 あまり行かなかった。また川へはあまり入らなかった。

白兼 山へ行つて、茸とり、栗拾いをしてしかられたこともあった。

司会 年代が変わつて、よかつたこと。悪かつたことなどあると思いますが……。

堀尾 よかつた点は従順であつたこと、現在の子はねばり強さが無い。

吉田 食糧難で物資のない時代だったが、今の子は豊富なため物を大切にしないし、ぜいたくである。

土屋 教育制度を批判されるが、その当時の教育の流れが現在を作り上げている。それだけの気力があつてほしい。

加藤 混乱時代、整つた時代などあるが、生活そのものは楽しんでた。

広江 もつときびしくしてほしいと思う。それに自主性を持つことも大切である。

司会 最後に一言ずつ学校教育に対することをどうぞ。

## 恩師からの便り

思い出 下川 錦 一

十年一昔と申しますが、私が鶴沼第一小学校に赴任して五年。それから三年余しか経っていないのに、学校のかわり方も社会と同様に著しく、昔の面影が残っているところは、ほんの少々になつてしまいました。

南舎の東の方に二階建六教室がありました。老朽、危険校舎で、四十年には取り壊わされています。前校長が岐阜高専の寮になつていた北舎八教室を、普通教室、家庭科教室、図工室、理科室、音楽室の特別教室に準備しておいてくださいましたが、使用できたのは一年きりで、次の四十一年には学級増のため、特別教室は、理科室と音楽室だけとなつてしまいました。

由緒ある学校で、ここに学ぶ児童たちが、市内他の学校にくらべて特別教室のすくないことは、残念でかわいそうでした。中学校のあき教室はそのままでしたが、よほど補強しないことには、役に立ちそうもありませんでしたし、職員室が一番西では管理しにくく、教育的な支障も多いので、中学校の旧校舎の改築には、賛成できませんでした。一方児童数は年を追つて増加していき、特別教室は理科室だけとなり、図書館も教室改造の対象になりました。

横山 もつときびしい教育をしてほしい。

土屋 教える立場の方は、中立公平であることです。堀尾 もつときびしく、先生が生徒か、わからない姿ではためである。

白兼 ねばり強い子にしたい。

武藤 物を大切にしたい。

伊神(女) 教育ではきびしい、でも家庭環境があまいので、親自体しっかりしなければいけない。

吉田 仕事、仕事で子どもの事を知らない、親が悪いこともあるが、子どもの相談に乗つてやれる先生になつてほしい。

水谷 今こそ、親自体が子どもの教育を再考してみる必要がある。

広江 頭でっかちにしない。遊び、体力づくりをしたい。

林 今の子は口ごたえが多いし、自力がない。

加藤 先生は自信を持って頂き、子の先生であると共に、親の先生でもあつてほしい。

今井 今の教育は、ねばりがないとは思わない。子どもなりに精一杯やっている。

伊神 家の子を二回ずつ、ひどくしかつたこともあるが、その後は、親の言うことをよく聞く、現在の学校の教育でよい。

司会 昭和の初期の皆さん、いろいろお聞かせくださつてありがとうございます。

曇天、雨天には教室が薄暗くて、照明がなければ授業が満足にできません。冬季ストーブを入れても、窓ガラスのすき間風、床板から吹上げる風で、保温は不十分でした。プールは高学年用だけであつたし、周囲は鉄線のかこい、運動場は雨の時、冬の凍てる時は、ぬかるみ、水たまり、夏は雑草がはびこり、難儀をきわめました。

こうした困難な状況を、目にされているPTAの方々、が市へ交渉されたり、勤労奉仕によつて、運動場に赤土がはいり、側溝がつくられ、プールにはフェンスがはられ見違えるほど、よくしていただきました。



交通コーナーで勉強する児童

校下は国道四十一号線、二十一号線と交通の難所で、毎年児童たちの交通事故傷害は、十指にあまるほどで、学校で、十分注意していても、事故防止は困難でした。四十三年、東の運動場の湿地帯を何とか役に立てようと、先生方に研究してもらいました。この年は岐阜地区交通安全推進校になりましたので、PTAの方々の並々ならぬご努力と、校下の有志の方々のご寄付により、市にも協力していただいて、すばらしい交通コーナーが完成しました。ここでは児童たちは、交通ルールを実地でおぼえ、訓練の徹底を期しましたが、それでも交通事故は絶無にはなりません。しかし、学校職員、PTA児童ひいては校下の皆様が、心あわせての交通安全への願いをこめました。

次に四十一年度から開設した、基本学級のことも忘れられないので、一つです。二月頃から開設の準備にとりかかって、旧担任、新担任、校長と三段構えで、親様と話し合いました。開設を機会に、全校の学級名を体制をととのえました。開設を機会に、全校の学級名を担任名でよぶことに改めたり、先生方からいろいろなアイデアを出してもらって、やっとふみ出したのですが、担任に人を得たことと相まって、順調な出発で、五月十日が開設第一日となりました。市から開設費をいただき、この年は鶴沼第一小学校だけ基本学級ができたため、市のライオンズクラブからプレーヤー、幻灯機等の寄贈を

うけ、備品はかなりそろってきました。この学級の親様方の入級までのつらかったお気持ちを、その後率直にお聞きする機会をえましたが、何ともいえず、胸にあついても感じました。

四十年四月、赴任するほんの数日前、その時の一年生の男子が二人、自転車事故で半年間は学校へ出てこられないほどの重傷でした。それから交通事故はありましたが、傷害の程度ですんだことは、不幸中の幸いでした。四十年、二年生の子が丹毒で、四十一年、一年生の子が肝硬変で、——この子は一度も学校へ出席しなかった。三年生の子が脳腫瘍で、二年生の子が木曾川で四十四年一年生の子が二名、木曾川でなくなりました。五年間に六名なくなりましたが全部男子でした。一年生二名の子がいっしょになくなるようなことを、防ぎ得なかったのかと慚愧にたえません。百年を迎える、鶴沼第一小学校の伝統ある歴史の中に、汚点を残すようになったと恥かしい思いでいっぱいです。

幾多の先輩の校長さんや、先生方。いっしょに勤めていたときの教頭先生や先生方。皆さん。五年間のPTAの方々。校下の皆様のご援助、ご協力によって勤めたことを今新しく感謝し、併せてお祝申し上げます。

☆☆☆☆☆☆☆☆

(四九、一、二八)

## あの頃の印象

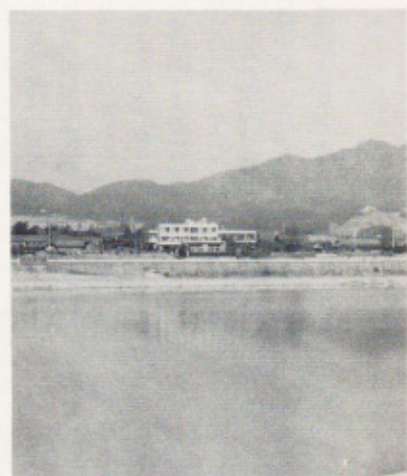
松野義人

緑のこい南の伊木山、北側の連山、その山麓を流れる日本ラインの清流。その向う岸に聳える名城、犬山城の展望は、校庭の櫓と共に、赴任の日から忘れ得ない私のふるさととして、今だに美しい光彩を放っている。

昭和三十年三月下旬、転任辞令発令以前、急拠県庁、(現総合庁舎)に呼ばれて、開催中の岐阜地区地教委長会議に呼こまれて、いきなり故武藤嘉一連合会長の紹介で、鶴沼第一小学校の校長に任命された。

着任と同時に現職のまま、教育長兼任を命ぜられた。時あたかも本館建築中で、国の補助金にかかる適正審査を受ける時期であった。学級数と児童数のことで二日にわたって冷汗を流したこと、二年の間に岐阜大学芸学部新卒五名の配置を受けて、新鮮な空気の導入と学習指導意欲の向上に大きな期待をかけた。

赴任の四月各務村の合併記念祝賀会、塚本町長の選任本館の竣工。(西端の南北舎)運動場を二米間隔に一、五米の深さに二米中掘り起して、伊木の河原からPTAの労力奉仕で運んだ丸石を底に一米厚さで敷きつめ、排水工事をやって、冬季運動場の活用が可能になる施工。本格的な学校給食の開始。PTAの寄附にかかるピアノ



木曾の清流と北方の連山

の購入、各務虎雄先生による校歌の制定と、それらの披露音楽会。保健体育の実践で、二ヶ年間県教委指定校となり、生涯の保健体育を身につけることを目指し、指導研究発表会など今だに印象に残ることばかりです。

## 十年昔のあのころのこと

宮脇健市

田藤のこと。三善会長さんから「何か思い出を一筆?」と、丁寧なご挨拶をいただき、先ずもってこの度のご企画に敬意を表わします。と併せて、鶴一小今日の発展を心からお喜び申します。ここに、お世話になりました当時は回想し、思い出の一つ二つを綴ってみるこ

にします。

#### 市立鶴一小第一年目のころ

新市各務原が岐阜市の東隣に誕生したのは、昭和三十八年のこと、この年図らずも鶴沼第一小学校にご厄介になることになりました。ご存知のごとく、那加、蘇原、鶴沼、稲羽の四ヶ町が市政行政のもと、小学校十校、中学校、いづれも市立小、中学校として発足した清新澄刺の陽春四月のことでした。

誠実謹厳な今井教頭さんから、学校や校区の様子をうかがったり、校長室歴代校長の昔の姿の額写真を眺めて、なるほど、年輪の古い学校だ。とつくづく思われ、沿革誌なども早速ひもといて見るほどでした。

また、学校に一步足を踏み入れるや、心を強く打ったものに大げやきがあります。天を覆わんばかりに枝を茂らせ、梢を延ばし、鶴一小学校の主として、根を張っている大げやきの偉容には、驚くばかりでありました。大げやき、この君に鶴一小学校を尋ねてみればや……」こんな気持ちでこの木と縁が深いとか。当時の栗木教育委員長さんから、しばしば学校の創立や歩みのほどを承って鶴一小の先生として腰を落着けました。私は名鉄各務原線鶴沼宿で乗降していましたので、車窓遠方から眺めのきくこの大げやきの四季折々の変化に、生命力の偉大さを感じ、鶴一小のシンボルとして、今なお感慨深いものを抱く一人であります。



石の配列に一苦勞

でした。明るい図書館、楽しい読書。豊かな子ども。こんな願いをこめて、学校づくりに日々を送る当時でした。「……………今度の市長選挙には、○○立候補者に、何とぞ何とぞよろしくお願い申し上げます……………」学校近くの道路をスピカーが流れるころ、市校長会が発足し、会議が頻繁に開かれました。会場はきままって那加二小裁縫室で、新市のほぼ中央、交通の便がいいといったことだと記憶しています。石川校長会長を中心に、十四人の校長達で、教育予算案の調整、経営プランの交流、諸規定などの作成等々。なごやかに、何かしら希望に燃えて、毎度のことながら活発な会議の中に、新市教育体制のひとつひとつが整えられていきました。

#### 学校づくり第二年目のころ

「環境は人をつくる」の言葉のように、図書館充実を中心に、施設の整備に第一年目は過ぎました。これが地ならしと、軌道づくりの第一歩といたところでした。いよいよ第二年目、先生方との気心も通じ合い、鶴一小としての教育目標が形をなし始めました。四月当初の

やがて、PTA総会が開かれるころ、三善会長さんか

ら「校長先生。遠慮はいらんぞな。先生もこの学校に赴任されて夢もおありでしょうで、申しつけてください。われわれPTAの力でできることなら及ばずながら…」と、まことにありがたいお力添えの言葉をいただきました。それ以来、小鳥小屋の整備、池庭の構築が始まりました。

「校長先生。今朝来て見たらあの池に大きな錦鯉が何匹も泳いでいます。」

「私は何も聞いていないが……………。どなたやろか。」

「会長さんが知らぬ間に入れておきんさつた。」

続いて、子ども達がみつめて、

「校長先生。大きな鯉、たんとおる。みにおんさい。」

と笑顔で誘ってくれたのも、この時のことでした。

とりわけ、図書館蔵書の倍増と、館内拡張、備品一切の新調で面目一新、市内はもとより県下屈指と折紙がつけられたのも、会長さんの陣頭指揮と佐伯副会長さんの設計、改装工事の賜で、職員一同、子どもたちのために、と、整理、運営等のため、夜遅くまで作業や打合せに時を忘れることがしばしば



鳥小屋の修理に  
余念のないPTA

職員会で今年こそはさらに一步をと、調和のとれた全人教育を目標に、元気で、仲良く、よく考えて、やりぬくこの四つが、鶴一小の子どもの目あてにしようということで、確認し合いました。そしてこの実現の一つの重点に「子どもの育つ図書館教育」が取りあげられました。さらには、児童会園芸部を中心に、FBC花壇（フラワー、プラボー、コンクール）に参加し、本格的なプランに取りかかり、奥村教務主任、北原、早川両女先生等の指導で、校庭を花で飾る仕事が展開されていきました。また、この豊かな環境づくりの一環として、PTAのご協力で、石庭花壇づくりや、遊具補修取付けの仕事が行なわれました。確か五月始めのころ、佐伯新会長さんをご先頭に、トラックの提供もいただいで、PTAの方々と遠く掛斐川の上流を尋ねて、珍石巨巖のあれこれと、それぞれの人のイメージの湧くがままに、いつしか代価のことなど忘れて、トラック二台に求めて来たことでした。続いて、PTA作業によって、一トン余りもある大石が「これは形が面白い。考え石にしよう。」

「これは伸よし石だ。子ども達がよろこぶだろう。」

「これは重みがある。どっしりしている。元気石としよう。」

「これは実行のシンボルだ。やりぬき石だ。」

と、子どものような気持になって、庭木の配置と相まってチェーンブロックの操作も巧みに、鶴一小独特の見ごと



な石庭ができあがりしました。仕上げの敷石には、ひとりひとりの子どもの手で木曾川の玉石が拾われ、園芸部の骨折で、秋花壇用の苗がところどころ植えられたことも伝えておきます。

また、蔵書の倍増計画により購入された新本は、子ども達の人気の的でありました。利用度が急上昇し、感想文も多くの子が進んで書くようになりました。これに呼応してか、PTAの読書会の熱の入れようもたいしたものでした。ありがたいことに、佐伯会長の浄財の提供



図書館活動風景

や故武藤嘉一市長さんの蔵書のご寄贈もあって、希望のPTA「けやき文庫」が誕生しました。まことに親子ともども、読書花ざかりといった感じでした。「けやき文庫」の命名は、今さらいうまでもないことで、名づけの親はPTAと記憶しています。

ここに、栗木教育委員長さん、三善、佐伯両PTA会長さん、旧職員のみなさんをはじめ、お世話になりました多くの方々に、改めてお礼を申し上げますとともに、鶴一小のますますのご発展を祈念し、思い出のヒトコマとさせていただきます。

### 卒業生寄稿

#### 時の流れ

大栗清代

私が鶴沼第一小学校へ入学したのは昭和二十三年の春校庭の桜の花が満開の頃の事です。

今から、もう二十五年も前の事ですが、なぜか私の脳裏に焼きつき、はっきりとした記憶となつて残っていることがあります。いや私の生涯の忘れえぬ思い出だろう。

私は入学式の当日、一人さびしく学校へ行きました。今は亡き母は、あの頃病で床に伏しておりました。一緒に入学する友達は、みんなお母さんに手をひかれて学校へ来ており、親子のは、えましい姿を見た私は、子ども心にもなんとやり切れないさびしさを感じた事か……。入学式から帰って病の枕元へ走りより、母に「早く病気をなおして下さい」と、ないてせがんだものでした。その時、母は私の涙をふきながら「入学おめでとう。これからは小学生だから、先生の言われる事を良く聞いて

さて、くしくもこの年の十一月に、第十四回岐阜県学校図書館教育研究大会が、本校を会場にして開催されました。この折に県内各学校より参会された先生やPTAのみなさんに、本校図書館を開放し、児童の読書活動の研究紹介はもちろんのこと、けやき文庫委員、学級読書会の世話係の本校PTAの方々の実践の一端を披露していただいたことも忘れることのできない、思い出の一つとなっております。

「地ならしと軌道づくり」  
これが、新市発足当時の鶴一小職員の合い言葉でした。そして、そのころの思い出二ヶ年は、十年の遠い昔のことと去って行きました。



学校図書館コンクールで  
知事賞の栄冠を射止めた

しつかり勉強するんだよ」とにっこりほ、えんで言ってくれたあの時の母の言葉、あの笑顔……それからまもなく母は他界しましたが、あの時の笑顔の母さんは、私の今までの人生でうれいにつけ、かなしいにつけ、そつと目をつむると、私のまぶたに現われ、励ましてくれたり、祝福してくれたりします。

そんな笑顔のやさしい母の思い出、そして私と母、母と私がこの世に生まれて、心が通じた最初の最後の語らいの思い出もあります。そしてこれが、私が小学校へ入学した時の一日です。学校では一年一組、担任の先生は勝野幸子先生でした。先生は若くて美しく、心のやさしい先生でした。当時私の母が病で寝たきりだった事を、知っておられたのだろうか。私に母親の様にいろいろ身の回りの事まで、気を使って下さいました。学校で洋服をよごした時など、先生は洗濯をして下さった事もありました。そしてある時、私の筆箱を見て「この筆箱では鉛筆や消しゴムがもれちゃうね」と言つて先生が、

御自分で使つておられた筆箱を私に下さった事もありました。私は先生からいただいた、先生の温かいにおいのあるその筆箱を以後大切に使つたものでした。入学して初めての遠足で、犬山城下の川原迄行きました。私は父が作つてく



けやきの下でのおゆうぎ

れたやき芋とあま木をリュック一ぱいにもっていき、勝野先生に食べていただいた時、先生は「美味しい美味しい」と言って食べて下さり、その顔を見て私まで、うれしくなったあの思い出、けや木の回りで踊ったおゆうぎ「おててつないで」のあの歌。

そうした先生の楽しい温かい教えのもとに、一年生は過ぎて行きました。そしてたしか、二年生の時でしたか、勝野先生はお身体が悪くなり学校を退職される事になり、おわかれの時、私を教室のかたすみに呼んで「大栗君お父さんの言われる事を良く聞いて、立派な人間に成長するんだよ」と言う様な事を、私の手をしっかりとにぎりしめ、目に涙さえ浮べて言って下さった事。私はその時先生の言われた言葉の意味は良く理解は出来なかつたけれど、共に涙したあの時の事、そうした先生との思い出は遠い昔の事であるけれど、ついまだ、この間の事の様な気がしてなりません。

現在私には、当時の私より少し小さい子どもがいますが、私の子どもがもう生涯の思い出を、記憶する年頃かと思うと、何か考えさせられる今日この頃です。

小学校時代を通じて、三年生の時は左高先生、五年生の時は足立先生、六年生の時は薰田源市先生と、ほんとうに良い先生ばかりに恵まれて良かったと思ひ、そして現在の自分があると云うのも、こうした諸先生方の温かい教えのためものと深く感謝致しております。近代建

築へと変わりゆく我が母校鶴沼第一小学校を見て、うれしい様な反面、淋しさを感じるのは、私一人であろうか。

## 心の故郷

片桐玉江



片桐

昭和四十六年四月六日、シトシトと春雨の煙る中を私は、各務原市立鶴沼第一小学校に入学する長女と共に、胸ふくらませて校門をくぐったのでした。体育館で挙行された長女の入学式で、校長先生や来賓の方々の祝辞を耳にしながら、いつしか二十余年前の小学生時代に思いをめぐらす私でした。

夢見心地でいる私の耳を、突然「南校舎の東より二番目の教室です」と、つらぬいた長女の担任教師の言葉。この時、私は胸の高鳴りを押さえることが、出来ない程の感動を覚えたのでした。

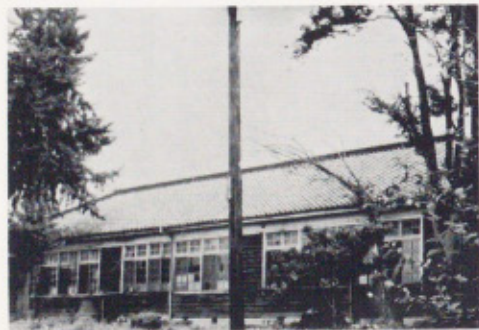
「南校舎」それは、何と朽ち果てたみすばらしい学舎であろう。校舎入口の重く、今にもはずれてきてしまいそうな大きな木戸。教室の入口の赤銅色になった木戸。やっとささえられているだけの窓。「多くの生徒によつて傷付き変色し、重圧感を増した柱。無数のはり紙の跡

に、数々の思い出をしのばせる板壁。素足ではケガをしそうで、危なくて歩けない程に痛んだ床板。そこには、長年、厳しい風雪に堪えて、学舎としての重責を果して来た偉大な自信と輝きが満ちあふれていた。

この学舎こそ、私が入学と同時に学んだ思い出の教室だったので。二十四年の才月を経て今再び、長女の学舎としてこの教室に足を踏み入れようとは、想像もつかぬことでした。

昭和二十二年四月八日。大安寺川堤の満開の桜並木に祝福されて、私は、鶴沼町立鶴沼第一小学校に入学しました。鶴一小のシンボルけやきの木が四方に手を差しのべ、私たち新一年生を迎えてくれました。

校庭で入学式が挙行され、朝礼台の上で言葉をいただいた黒いチヨビヒゲをはやされた、勝野貞一校長先生の細面の顔が、懐かしく思い出されます。昭和二十二年と言えば、第二次世界大戦が終って二年。日本国は復興



風雪に耐えてきた学舎

の真最中で、大不況の世の中。治安、食糧、物資に至るまで、大混乱を来たしていたことは、私よりも諸先輩の皆様の方がよく知っておられるところでございます。そうした中で、教育制度は、終戦時まで続けられた。「教育勅語」に準じた教育とは一変し「新制度教育」という名のもとに新しい息吹の感じられる希望に満ちた入学でした。しかし「新教育」とは言っても、戦後の大不況は教育界に波及し、現在の教育のあり方とは、雲泥の差がありました。

茶色を帯びたザラ紙に印刷された「国語。算数」の教科書は、新本ではなく、すべて、兄弟達の「お古」を利用しました。

ランドセルは、ボール紙を芯にして、布を張りつけただけのもので、半年もすれば破損してしまい、止むなく風呂敷に教科書を包んで、通学したものです。

物資不足の折りから、小学二年の頃までは、休日や放課後を利用して、力草の刈り取り、桑の木の皮むき、どんぐり拾い、等に協力して学校を通じて、どんぐり出荷したものです。

食糧難の時代から、お弁当は、麦ご飯に梅干しが、ならわしのようでした。農家で育った私は、さつま芋の粉のおだんごやふかし芋を、お弁当によく持っていったものです。芋の粉のおだんごや、ふかし芋を、先生や友達とわけあって、食べる時、それは、本当においしく楽し

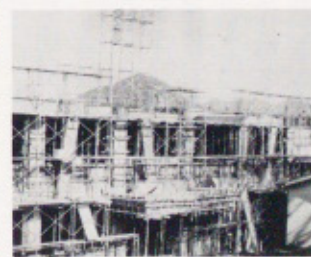
いひとときでありました。また、冬になると父兄が、部落毎に当番制で野菜を持ちよって、おみそ汁を作ってくれました。あの時のみそ汁の味と香りは「母達の味」として今も忘れることが出来ません。

入学時代の衣類と言えば、人絹、カベが殆んどで、水につけるとバカバカになり、乾くとタラタラになる。色あざやかな染色は、雨に降られたりすると色が溶けて、流れおちるようなものばかり……。しかも姉達のいた私は殆んど姉の「お下り」ばかりで衣服のいたる処に布があてがわれていました。当時の母の夜なべ仕事と言えば、衣類のつくろい、機織り、大根、さつま芋、などの切り干し作りでした。暗い裸電球の下で鼻唄を唄い、子ども達と語らいながら、夜なべ仕事に精出す母の姿を一児の母となった今、私はシミジミと思ひ出すのです。また、この頃殆んど農家で、機織りが行われていました。私の母も機織りに精出したものです。家で生産した生糸のくず糸をつむいで染色をし、カタンカタンと母が織ってくれた布地。その布地に顔を押しつけると、あの独特のマユの香りが鼻をつんざき、私はそんな時、母の精一杯の愛情を感じ取り、満足感にひたつたものです。

更に、衛生問題で忘れられないのが、引揚者によって大陸から運び込まれて来たシラミ騒動です。小学三年頃まで一週間に一度、衛生室で頭髪と背中に、「DDT」

を塗布された記憶があります。

また「義務教育」だ「新教育」だ。と言っても、農家で育った私の家庭では、勉強ばかりに専念することも出来ず、稲刈り、芋堀り等の野良仕事や、家事の手伝いに追いまわされました。そんな中で「こくご」の本を暗記し、「算数の九九」を覚えたものです。また、勤労の中の母との語らいは本当に楽しく、尊いものでありました。「親子の対話を大切に」などと云って、親子の断絶が問題化する今の家庭教育のあり方を、私は何ともやるせなく思うのです。



新築中の校舎

に、学ぶべき何かがあるのではないかと思うのです。

また、小学校時代の思い出は、鶴沼の大自然を除いては語り尽くせるものではないと私は思います。鶴沼第一小学校を中心に、北には松茸狩りで有名だった鶴沼の山々、西には白銀に輝く伊吹の秀峰、南には、その名もうるわしい夕暮れ富士、国宝犬山城、白く光る犬山橋、男性的な流れを誇る木曾川。等、大自然は鶴沼第一小学校に学んだ私を、常に温かく見守ってくれました。こうした自然の中で伸びくると育った私は、科学技術を、物資文明を謳歌する世の中とは言え、際限もなく変り行く鶴沼の姿を淋しく思うのです。それだけに、小学校時代の思い出が一層懐かしく、胸によみがえるのかもしれない。

何はともあれ百年の年月は、鶴沼第一小学校の姿を日毎に塗り変え、私の学んだ頃の面影も、間もなく取り壊されるし南校舎を最後に、すっかり姿を変えてしまいました。

私は最近になって鶴沼第一小学校に通学している長女に「鶴沼第一小学校は、お父さん、お母さんも、おじいちゃんも、おばあちゃんも通った所だよ。懐かしい、大事な学校だよ」と言い聞かせるのです。

「親・子・孫」と三代にわたって住い、学んだ私たち一家にとっては、鶴沼の土地と、鶴沼第一小学校は偉大ななる父、母であり、心の故郷なのです。

## 二つの事件

林 宣 幸

小学生時代をやたら懐しがらにしているのは、私は若過ぎるし、かと言つてある程度美化されずには、すまない年月が経っているのだ、そんな思い出はへんに恥ずかしく、億劫なのです。しかし、そのうちでも、幼かった私にとって大きな驚きであったある事件を、自分自身の為に書き留めて置こうと思ひます。一つは正に事件でしたし、あとの一つは今から思えば、事件というより時代の流れに関連づけられた、成長の一コマといったものでした。昭和三十年四月一日、一年三組の教室に集められたちびっ子達は、こわいような、わくわくした気持ちで、始めての出欠をとっていたいました。先生の明るい、はっきりとした声私の名前を呼んだ時、私は無我夢中、「ハイッ」と自分でも、びっくりする程の大声で返事してしまいました。「とても良いご返事ですね」とほめられた時、私はこの先生がいつべんに大好きになりました。この方が深尾公子先生で、深尾先生にご指導いただいたのは一年生途中まで、一年生後半は大野とし先生の担任でした。深尾先生は、それはもうお綺麗な方で、背がスリと高く、髪は往年の大スターのように七三に分け、鼻すじの通った色白の美人でした。

先生が、回りにちびっ子達を、集めてオルガンをひかれる時には、驚見彰君や私を始め、皆が先生の膝の上を取りっこしたものです。そんなふうには、私達は先生を信じてきいて本当に楽しく、学校生活を送っていましたが、深尾先生は、冬のある日を境にして突然、学校へいらっしやなくなりました。何の説明も前ふれも断じてなく、先生はその後、二度と私達の前に姿を現されることはありませんでした。先生が急に結婚された、という噂を聞いたのはかなり後になってからのことです。いくら一年間に満たぬ短い間とはいえ、母親にするように、慕いまつわりついたおちび達を、そんなにも簡単に見捨てられるものかどうか。その時、先生はどんなお気持ちだったのか。深尾先生のお顔をふっと、思い出すことになぜか寂しくなる自分の気持が、当時の私に説明できる苦もななく、またいつの間にか忘れてしまうのが常でした。当時の先生のお気持ち、なんなく理解できるような気がしてきたのは、やっと最近になってからのことです。彼女の中には世界中で一番大切な、彼以外は一切写っておらず、私達にとってはとてもしあわせだった毎日、彼女にとっては頼りなさそのものだったのかもしれない。学年途中で教え子を見捨てざるを得なかった、先生のお気持ち、それは教育者としては失格に近いものを感じますが、人間としては、非常に生々しい魅力あるものを感じます。二年生になってから、林幸代さんが出場したラジ

になっていて、それを覗き見した私が、意味もわからぬ軽率さのまま、「キシタイジンセヨ」と、大得意で内容を口走った時、先生は何もおしやらかなったが、憐れむような悲しいような顔で私の目を、じっと見つめられたのでした。この年は三年から同じクラスだった土屋道幸君が事故で亡くなられるなど、交通事故がそろそろ新聞紙面をにぎわすようになってきた年です。浅沼稲次郎が公衆の面前で暗殺されるという、ショッキングなニュースがありました。言うまでもなく、60年安保闘争年でもあり、前年の伊勢湾台風とも併せて、世情は騒然となっていました。私がおちびから少しづつ脱皮していつ、社会にも目を向けるようになったのは、岩井先生にご指導いただいた、この年以降のことです。

## 給食の思い出

榎原美智子

思い出という言葉、辞書で引いてみると「思い出とは、過ぎ去ったことを思い出すこと」とある。過去のでき事を、なにかのきっかけで思い出し懐かし振りかえってみると、昔、感じたと同じ思いが何年かたつた今でも、甦ってくるのは不思議である。今、小学生時代のでき事をふりかえってみると、まっ



6年1組の級友

オ番組「子供音楽会」の公開録音中、先生らしい女の人が赤ん坊を抱いているのを見た覚えがあります。気には掛けながら、遠くから眺めていただけで、ついに確める勇気がありませんでした。人違いだっただけかもしれないし、その後は一度も、先生らしい人にさえもお会いしていません。

五、六年生の担任は岩井愛武先生で、先生は美術が、中でも創作が特にお得意でした。元来、人間が非クリエイティブにできていた私は、先生の漸新な技法についていくことができず、本場の事をいうと、先生の図工の授業は好きではありませんでした。また、ほとんど毎日宿題を忘れてくる私に向かって、「サボタージュをしてはいかんね」と、かつて私の聞いたこともなかった「サボタージュ」という言葉が使われたのは、岩井先生だったと記憶しています。六年生のある日、先生はいつになくあわただしい感じでした。先生は手に一通の電文をお持ち

さきに浮んでくるのが、脱脂粉乳とドーナツの給食のことである。

勿論、在学中に担任していただいたY先生や、M先生など四人の先生方のことは、さまざまに思い出として心に残っている。だが、どういふものか正規の授業時間中の事は全くともいえるほど、記憶にないのに、それ以外の先生とのつき合いのこと、たとえば、友だち数人と先生のお宅へ訪ねて行った時のこととか、居残りして先生のお仕事の手伝いをした時のことなど、そんなことの方が懐しく思い出されるのである。一年から三年まで担任していただいたY先生の一言も、そんな思い出の中に印象深く残っている。

先生は母に「美智子さんは薬を飲むような顔をしてミルクを飲みますよ」と言われたそうである。ミルクとは脱脂粉乳のことである。



給食をよろこぶ子供たち

私はそのミルクが大嫌いであつた。進駐軍からの配給で、昼食の時間に飲まされていたのであるが（私には飲むというより飲まされているという思いの方が強かった）給食缶から机にのせた、アルミのコップにそのミルク

がつがれる時「少しにしてください」と小さな声でたのんだことを覚えてる。

口に含むと焦げくさい味がし、時々ミルクの固りが入っている、その粉乳には、吐き気をおぼえるほど嫌いだ。今もなお牛乳嫌いなのは、その時の粉乳が起因しているのではないかと思っているほどだ。

そんな嫌いな粉乳ではあったが、大きな紙の容器に入っていた時は、ほのかに甘い匂いが、おいしそうに感じられ大好きだった。ドーナツの油っぽい甘さと共に懐かしい。このV字形をしたドーナツは、何年生のころの給食であったのか記憶も曖昧だが、とにかくおいしくて次のドーナツ日がたのしみであったことは確かだ。

私は昭和二十三年の入学であるから以後、二、三年のころはまだ、食糧も物資も十分とはいえず、特に子どもの私たちは甘いものに飢えていた。そんな時のドーナツの給食は私たちに一番人気があった。先生が公平に二個ずつ配ってくださるのを、机にちり紙など拡げて待っていたものだ。友だちのドーナツの方がちよつと大きく思えたのも、いまから思えばほほえましい思い出。クラス全員にいきわたったところで、食べはじめののだが、あつという間に二個とも平らげてしまう男の生徒もいれば、一つをよく味わいながら食べている女の子もいて教室には、しばらくざわめきの声が続いた。私などは一つを必ず残し、紙に包んで家に持って帰っ

と魚とりや、水泳ぎに精を出した。

また環境も今日のように、公害でさわぐような時代とは違って、近くの川に魚がたくさんおり、夜になるとホタルが飛びかい、木曾川は水が清く澄み、まだライン大橋の姿もなく、犬山橋附近の両岸は河原が点在している格好の水泳場となり、昼頃から子どもたちでにぎわっていた。

私も昼食をとるや友だち数人と、大きなチューブの浮袋をもって川へ急ぎ、岸辺に竹やあしの木が、密生していたので着替えには都合がよかった。

そして岸沿いに川を二、三百メートル上り水の流れに乗って川を下ったりして、四時ごろまで熱中し、帰りは喉がからからになるので、近くの店によって氷ジュースや、アイスクリームを買って食べながら、帰るのがたのしみのひとつでもあった。

そして夏休みも終りに近づくころは、子ども心にも頭の痛くなる時期であった。宿題は山積み、休みはあとわずかとあつて、気ばかりあせて何も手がつかず、よく両親に叱られたことを覚えてる。

我々が学んだ校舎が変容していくように、小学生の生活も変って来ている。休みになってもピアノ教室やら、幾多の習い事に精を出している姿を見ると、時の流れを痛感する今日この頃である。

た。帰り着くなり、油でしみた紙をそうつと拡げ、甘みを少しでも多く感じとるように、少しずつ口の中でかして食べたドーナツのおいしかったこと。

今、食べることでできるどんなドーナツより、その時食べたドーナツの方がはるかに甘く、おいしかったように思われ、そんな思いは年々強くなってくるようだ。脱脂粉乳のほのかに甘い焦げくささと共に、V字形の油っぽいドーナツの味は小学生時代の懐しい思い出として心にとりより舌のどこかに残っているのです。

## 夏休みの思い出

小林 孝

年のたつのは早いもので、母校を巣立って十余年。当時は非常になつかしく、そして昨日のように思えてならない。

あの小学校の象徴かのようにそびえ立つ大けやき、その下で暑い日も、寒い日も一年中ドッチボール、ソフトボール、縄跳びなどをし、校庭を自分の庭のようにしてはしゃぎ回った。

むしろ勉強より遊びのほうだが、一日のスケジュールはなかつたかと思う。

まして夏休みともなれば、朝から晩まで近所の友だち

## 「山の神様」

大栗 幹夫

今から十数年前が私の鶴沼第一小学校時代です。そのころの教室は、小学校と中学校が並んで建てていました。ですから運動場の取りっこなどで、よく中学生にいじめられました。でも中学校の校舎は私たちの学年が中学校を卒業すると、現在の場所へ引っ越ししました。近くで中学生を見ていたせいか、小学校のころは、早く中学生になりたいという、願望がたいへん強かったです。白線の入った帽子が早くかぶりたくて、しようがなかったことを憶えています。それと、丁度小学校のシンボルのよなケヤキの木は、その頃から大きく、雨が降る時は、その下で遊んでも濡れませんでした。夏はセミがいっぱい鳴きましたが、秋になって葉が落ちるころになると、毎日、の運動場の掃除がたいへんでした。

このケヤキの木と共に育った小学校時代の思い出の一つに「山のこ様」があります。この行事は、ずっと昔から続いていて、私より年長の方は皆さん経験されたと思います。各部落では、小学校一年から中学校三年生までの男子だけが集まり、最上級生がリーダーとなって、子どもたちだけで、色々なことをして遊びました。現在の「子ども会」のようなものです。内容はといいますと、

昼はシバ刈り、マラソン、夕方には、山の神様への参拝、夜は、夕食後隠し芸大会、キモだめしなどがありました。シバ刈りは、伊木山のすそで、鎌でおなご竹を刈り、ひとだかえの大きな束を、いくつも作りました。稲を刈るのとちがい、竹を刈るので、なかなか大変な仕事でした。手に豆をつくり、虫にさされながらも一生懸命苦勞して刈りました。それをリヤカーに積んで小伊木河原へ運び、そこで真ん中に松の木を一本立て、そのまわりを刈ってきた束でぐるりと囲みました。火がつきやすいようにあいだには、薬束を入れました。それを翌日の朝、まだ暗いうちに燃やすのです。私は燃えるところを、一度も見ませんでした。バチバチという竹がはぜる大きな音だけは、寝床の中で聞いたことがあります。朝の四時ごろです。寒い十二月にとってもそんな早く起きる気には、なりません。

山の神様への参拝は、宿の公民館から社まで「山のこ様のかーんじ」と大きな声で数え歌をどなりながら、そろそろ歩いて行きました。そして社の前では、二列に並んで、皆んな神妙な顔つきで手を合わせお祈りをしました。お祭りが済むと、待ちに待った食事です。大きなおヒツを真ん中にいくつも置いて、そのまわりをぐるりと囲んで座りました。五目ごはんを、上級生につけてもらい、皆んながそろってから、「いただきます」と大きな声で叫んで、食べだしました。この時とはばかり、ごはん

の食べ競争をして、何パイも何パイも食べ、あとで動けなくなる程でしたが、たいへんゆかいでした。

食事がすんだあとは、隠し芸大会です。一年生から一人づつ順番に、それぞれ唄ったり、手品をしたり、クイズを出したり、物まねをしたりして賞品を沢山もらいました。肝だめしは、一人か二人で、それこそ何か出そう、薄気味悪い場所へ茶わんを持って行って置いておき、次の者がそれを取ってくるのでした。これは年令によって行く場所が違いますが、本当に恐かったものです。私も皆に負けたくないので、強がりと言って出かけ、目的地に着いてから帰り道は、一目散にわき目もふらず、かきもどりました。

こんなに楽しかった「山の子様」も私が中学一年の時学校から禁止されました。朝礼の時、先生からそう言われた時は、私たちにどうしてたいへんなショックでした。でもこれを機会にして、男子も女子も仲よく参加できる「子ども会」が出来てきました。「子ども会」がなかった私たちが小学校の思い出として、「山の子様」がなつかしく思い出されます。

## 名刺取り

安田 新作



安田 二十一年の歳月が流れた。十年一昔と言  
うから、二昔も前の事になってしまっ  
た。さてこの度、輝かしい創立百周年  
に当り、役員の方から在校時代の思い出  
を書けと仰せつかり、文筆と縁遠い

毎日を送っている私にとって大変な事になった。とは言え、男子一度引受けたからにはと思ひ、重い筆を起した次第である。

私たちが小学校に入学したのは、昭和二十三年四月で戦後の物資不足の時代であった。ザラ紙のノート、色彩の少ない教科書を用い、給食なども進駐軍のお裾分けの感があった。一年生の担任は、容姿端麗で優しさの中にも厳しさのある先生であつて、通知表の所見欄に色々と、注意書きをいただいた。ラジオで覚えた流行歌を学校で口ずさんで注意された事もなつかしく思い出される。結局この先生に三年生まで受持っていた。四年生になつて担任の先生が変わつたが、また女の先生であつた。「名刺取り」と言つて、言葉使いが悪いのを発見されると発見者に自分の名刺を取られる制度が生れ、大変悩ま

された。五年生になつて男の先生に変わったが、特に男生徒に厳しい先生であつて、とにかく色々と変化に富んだ制裁を考案された。この年創立八十周年を記念して、国旗掲揚塔が建てられた。六年生になるとまた男の先生で、理科の得意な先生であり、最終学年であつた為か、大変



なつかしい恩師



級友と共に

熱の入った授業を受けた。実験、観測、観察など大変楽しかった。

自治活動では児童会があり、各クラスから選出された委員で構成され、色々な活動に関するとり決めが行なわれた。週番の制度もその一つで、校内の風紀、衛生のチェックを交替で行つた。

運動会は、例年隣接の鶴沼中や保育園と合同で行なわれたが、運動に自信のない私は専ら応援の方で努力した。六年生の学芸会は、学年合同で自主的に演目を決めた。今から思えば余りバツとしなかつたが、「楠正成」を演じた。「亡生報国」と土壁に刻んだり、切腹場面も登場

させ、ヨロイ、カブトの製作に苦勞した。  
修学旅行は、伊勢志摩の一泊であったが、現在ほど方々へ出かけられなかった私たちには、二見の旅館の一夜が大変楽しかった。以上取り留めもなく思い出すま、書いたが、鶴沼第一小学校が校庭にどっしり根をおろした大げやきと共に、二十一世紀に向けて、ますます発展して行く事を祈りつ、筆を置く。

## 開校百年に寄せて

阿部 通 矩



たくましいげやきの幹

開校以来百年に亘る歴史を有する我々の母校、その輝き歴史の中で、祖父が通い、父が、友だちが、私たちが学んでまいりました。そして二十年、今に息子が学舎に入らんとしています。私たちの祖先より子に至るまで、数多くの児童を学門の道に導き、文化の基礎作りの場となったこの母校のことを時々思い出します。

私たちは第二次世界大戦も終り頃に、生まれ育ちました。そして、戦は終わったと云え、物資は乏しく、苦しかったのですが、楽しい児童期を過ごさせていただきました。  
入学式、そして手渡された本。訳もわからないのに頁をめくり／＼いたしました。他から見るとは、向学に燃えているかに見えたでしょう。  
音痴の私にはいつもつらかった音楽。今でも私の家には「布巾掛け」が使用されています。これは図工の時間に作ったものです。これ等の教科の他に見るもの全てが珍らしく見えた社会見学や遠足。踊ったり走ったりした運動会、一生懸命に練習してみんなに見てもらった学芸会。キャンプもありました。楽しくて眠れなかった修学旅行。嬉しさと寂しさが交った卒業式等々……。  
学級担任の先生が家庭訪問される時や、通信簿が渡される時には、いつも大きな不安と小さな期待で、一杯でした。これらのことがいつも懐しく思い出されてくるのです。そしてこの歳になり、この道(教員)に入り感じます。今は教育設備も充実してまいりましたので、何不自由なく教育が出来ますが、どれほど私の子どもたちに楽しい学園生活を送らせているのかと思う度に、佗しき気持ちで、先生方の情熱が沸き出るように、思い出されてなりません。  
最後に卒業にあたり文集「げやき」を書いたことが、

思い出されます。樺は学校の歴史と共に、大きくなり枝葉を繁らせて強い日差しより私たちを守り、私たちが木の下に集い、語らい、遊び、学ぶのを見守り育ててくれました。

この大木も風雨に見舞われ、枝も折れ根も断たれんばかりの日もあつたと思います。学校も水き月日の間には、穏やかな日ばかりではないでしょうが、今後さらに幹を太らせ枝を伸ばし、葉を繁らせて我々の誇りとして、新たな世紀に向けてさらに大きく飛躍することを期待し筆を置きます。

## 小学時代の思い出

山本 ひろみ



プールでの楽しい一コマ

私が小学校を卒業して十年余り過ぎました。月日の流れの早いことに改めてびっくりしてしまいます。つい、最近のように思われるのですが、もう、一昔も前の思い出になってしまったのですから……。  
正直なところ、母校町立鶴沼第一小学校(当時)が、百年を迎えることは知りませんでした。でも

この話を聞いた時、私たちの学んだ教室(校舎)の古さと、げやきの木の雄大さを思えば、なるほどと思いつくところがあります。  
南校舎の西よりの出入口の上の所にはつり鐘が、まだかかっていたましたし、北校舎の東棟の出入口の天井には、十二支が書いてあつたように記憶しています。その当時でさえ、昔の面影が残っている学校だなぁという、イメージをうけました。そして、このような古いものとは、裏腹に近代化がはじまり、まず最初にプールができました。このプールを造る為に一円玉運動が行なわれました。無駄にされがちな一円玉を、みんなが根気よく貯めました。(学校から生徒全員に一円玉が縦に五十枚程はいるプラスチックの貯金箱が支給されました)そして、待ちに待ったプール開きの日には、若き日のオリンピック・ゴールドメダリスト兵藤秀子さん(旧姓前畑)の模範演技が披露されました。それから後に、体育館が完成しました。そしてちょうどその頃、隣りで勉強していた中学の人たちが、羽場の新校舎へ引っ越して行きました。その時、私たちの胸の中は、運動場が広く使えるようになった歓びと同時に、歯が抜けたような何んとも言えない淋しさを感じたものです。  
そして、私の小学校時代の一番の思い出は、給食のあのまずい脱脂粉乳をいかにして先生に見つからないように捨てようかと苦心したものでした。しかし、先生の目

は甘くありませんでした。見つかった時は、もう一杯余分に飲まされました。いやでいやでたまらなくて、鼻をつまんで飲んだことを覚えています。今は、牛乳だからうらやましい限りです。

それと忘れられないことは、K先生との出会いでした。私が、ちょうど四年生の時でした。先生が赴任して見えたのは……。私は新しい先生に対する不安と期待でいっぱいでした。低学年の頃の私は、勉強というものにはほとんど興味がなく、ただ、みんなと一緒に遊び回ることと精いっぱい、親の悩みの種だったと思います。それがK先生の授業を受けるようになってから、私は変わりました。落ちついて勉強するようになりました。が、なんと言っても最初の頃は、三年間の学習に対するブランクが響いて、私自身苦しい思いをしました。でも先生は、見捨てないで導いて下さいました。時々、どうして私は、あの時変わったのだろうかと考えることがあります。年令的にも落ちついて勉強する時期だったのだろうか？それとも先生の影響なのだろうか、小学生の頃はとかく先生から受ける影響が強いものだと思います。今から思えば、K先生には何か引きつける魅力がありました。それは生徒に対する細やかな愛情とその先生にしかない人間味だったのかもしれない。だいぶん年配の女性の方でした。「人生経験も豊富で人あたりもやさしく」いろんな生徒を教え、生徒一人一人の心理を見抜い

て、いらしたのでしよう。きっと……。高学年の三年間はこの先生のもとで授業を受けましたが、毎日／＼が楽しく学校を休んだこともありませんでした。小学校生活も最後となった六年生の時でした。先生は次のような詩を書かれました。

ぶどうのように

ぶどうのように

一つ一つがまるく

ぶどうのように

みんなで手をつないで

ぶどうのように

においもあまく

ぶどうのように

よろこびを 人から人へ

そして、この詩を黒板の上に掲げ、毎日朝礼の時に、みんなで大きな声をあげて読み、授業へ入ってゆきました。私はこの詩が大好きです。先生は、私たちに和と協調の精神を教えられたのだと思います。それ以来、私の心の中には、教育者のモデルとしてK先生がいます。そして、私はこの詩を小学校時代の総称として、決して忘

れることはないでしょう。

## 登下校の楽しみ

浅野 加寸美



浅野

今の子どもたちには、あまり緑のないことかもしれません。道草の楽しみなどと言うことは、宝積寺地区だけに限るならば、家から、新鶴沼駅までの約半分の道のりがバス通学になっていますし、歩いて通うにしても現在は車の数もずいぶん多くなりました。ですから、道いっぱいに広がって歩くことや、道端に、気ままに立ち止まるなどということは、安心してできません。しかし、今でこそこんな様子になってしまいました。私たちが小学生のころ（ほんの、十二、三年前なのですが）は、バス通学など思いもよらなかったのです。

あのころは、どんなに小さな保育園の子どもでも、歩くことしか通学のすべてでなかったのです。ですから、毎日／＼、雨の日も風の日も、数キロの道を歩いたものです。雨が降れば、傘をさしていても、長靴をはいた足もスカートまでもぐっしり濡らし、雪が降れば、手足がここえて、しびれてしまい、それでも学校に着くころに

は、今度はボカボカと、とても暖くなったものです。

雨が降れば、車の止めてあった跡に、ガソリンがもれて、それがまるで虹のように様々な色を連ねて道の上に広がっているのです。その中で二、三度足踏みをし、それから歩き出すと、その虹のような色が、そのまま足跡になっていくつもついて来るのです。水たまりがあれば、その中にわざわざ踏み込んで、水の深さを調べたり、アメンボがいれば、泥水の中に手をつつ込んでつかまえました。帰りに晴れば、晴れたでまた傘をさして歩いたものです。そうすれば、日傘の代用にもなり、そうして歩くことで傘も乾かすこともできました。

雪が降れば、行く先々で雪を握っては頬ばったり、雪玉を投げ合ったり、手に持って長いこと歩いてみたり、まだ誰も踏んでいないところに足跡をつけたくて、わざわざ大まわりをしたりしました。通学の中で、一番雪の日が好きで、そして、雪が降るのがとても楽しみでした。晴れば、晴れたで友だちとあたりかまわず大声で歌を歌い、その季節、その季節にある植物や、気象現象で、ずいぶん道草を楽しんだものです。通学は、単に通学ではなく、それはもう、我々には立派な遊びだったと思います。

春は、シロツメ草を摘み摘み登校し、学校に着くまでにずいぶん長く、縄のように編んだり、まるくしばって冠にしたり、首飾りにしたものです。また、レンゲ草を



沢山集めると、頂度リンゴのような香りがするので、わざわざ土手の上にある田まで摘みに入ったものですが、あのころには、この、「わざわざ」というのが少しも苦になりませんでした。他に、みつの花という紫の花をとっては口に含んだり、また、イタドリを何本か集めては、掃りの途中で二口、三口かじってみたり、ツンバラと言う草をかんだり……。きれいな花があると両手に持ちきれないほど摘みあさり、けれど家に着くころにははしおれてしまつて、結局は捨ててしまうことも多かつたようです。

初夏になると、麦の穂が出ます。その頃は、麦畑の中には人さらいがいると言つて、ずいぶん恐ろしい思いもしたものです。(このようなことは、我々の前の世代にもあつたらしく、母の頃にも、やっぱり麦畑の中に人さらいがいて、子どもをさらつて行くと言つていたそうです。)そのくせ、麦の穂の中に時々黒いのが出ていると、それを「黒ん坊」と言つては引き抜き、友人や自分の顔や手足に塗つて喜んだものです。カラス麦が出ると、その実でツバメを作つたり、松葉で引きっこをしたたり、首飾りを作つたりもしました。桑イチゴになると、手も、口の中も、唇まで紫色に染めて食べあざりました。いつの時だったか、校長先生が朝礼の時に、桑イチゴのことを、毛虫がなめたかもしれないから汚いのですよ。とおっしゃつたように思いますが、それを聞いて、そう言

えば、桑の葉には毛虫がいるんだと、それから二、三日は食べませんでした。けれど、やっぱり紫色のおいしそうな実を見ると、ついつい毛虫を忘れてしまつていたようです。

今となつては、食べたいという気はこれっぽっちも無いのですが、あの頃は、学校の掃りに何かを口に入れているというよりは、通り過ぎて行く上級生や、友人に対して、非常な優越感と喜びを感じたものです。今から考えれば、桑イチゴなどは砂ぼこりや雨にさんざん汚れていて、ずいぶん不衛生なものはずなのに、それを洗ひもしないで食べていたのですから、ずいぶん汚ないことを平気でしていたものです。カバンを背に持つていて、家にと少しという道のり、そこで食べる桑イチゴは、どんなにおいしかったことでしょうか。今では味も忘れてしまいました。そのおいしかったという思いだけは、いつまでも忘れられません。他にも、ぐみや、ゆすら等も食べたことがあります。その回数は少ないもので、桑イチゴほどはつきりした思いはありません。

夏には、そのころはまだ、プールがなくて川で泳ぐことが許可されていたものですから、早く泳ぎたい一心で飛んで帰ったことが多くありました。また、里芋の葉にとつともなく大きいのがあると、それを失敬しては頭に乗せて帰ったこともあります。これは、陽よけにもなりませんし、雨が降れば、傘のかわりにもなりません。

秋には、真墨田神社の銀杏に、ぎんなんがなると、それを拾つては近くの小川で洗い、ハナカミやハンカチに包んで持つて帰るのが日課でした。ぎんなんの外皮が破れてないのを足で踏んで種を取り出したり、そのまま持つて帰つて、何日間か土の中に埋めておいて、祭りの日にとり出すのを楽しみにしていたものです。刈入れのころには、自分の家に田がないのですから、親類の子とその家の田に寄り、昼御飯の食べ残りをちょうだいしたり、田の中に入つてはイナゴやタニシをとつたりしたものでした。また、さつま芋の葉をとつて、茎を上手に折り分け、それで首飾りを作つたり、聴診器を作つたりしたものです。

冬には、何センチもある霜柱が畑の中にあると、まだ人の通つてないと場所を選んで、その霜柱をサクサクと踏むのが、とても気持ちの良いものでした。息が、とてもはつきり白く見えるので、口をとがらせては息でドーナツを作つたり、厚い氷のかけらを長い間けて行つたりしました。また、手が冷たいからと、火鉢の中で小石を暖め、それを握つていったり。路上に、けんかした友だち



真墨田神社

の悪口を思う存分書きなぐつたり、決まった通学路ではない所に入り込み、ちよつとした探険家気取りになつてみたりしたこともあります。一度しかないとはいませんが、荷馬車を通つたことがあつて、その後について走つてみたり、あの頃は確か、「ガーガー戦車」と呼んでいたと思ひますが、旧式のブルドーザーだと思ひますが、それがまだ舗装してなかった砂利道を走るのが診しくて走つてついて行つたりしたものです。途中から、川原に降りて行つて、遊びながら帰つたものです。四十分から、五十分くらいの道のりだつたと思ひますが、それを、一体どれほどの時間をかけて家にたどりついたことでしょうか。

バスに乗り始めたのは、小学校の五年生の終りごろだつたと思ひます。それまでは、バスに乗るといふ楽しみができませんでした。それが歩く楽しみは沢山ありました。そして、それなりの思い出も沢山あります。小石を家から権現橋あたりまでけて行つたことや、帰りに、針金や古クギを拾つて帰つたり、友だちとケンカし、大声で悪口を言い合つたことや、思い返せば、本当にきりがありま

## 二十八年前

渡辺 治

先日小学校の体育館にて、子どもたちの七夕まつりがあり、久しぶりに学校に行きました。校舎など建て直されすっかり変わっていました。ただ一つ心に残ったのが、校庭の真中の大木けやきで、毎日この学校に通った日思い出させてくれました。

私たちが鶴沼第一小学校に入学したのは、昭和二十一年四月。戦争も終り、日本国民だれしもがみじめな生活をしていた時世だと思います。

当時は自給自足。衣服なんか蚕を飼って糸を取り、家で織り、母姉が仕立てて着せてくれました。金ボタンの学生服は小学校三、四年生頃までありませんでした。

夏休みに入り道に生えている、力草とか言う草や桑の木皮など剥いで、それぞれ乾燥して上級生と学校へ持って行きました。これは紙の原料になったそうです。

履き物などは下駄が多く、運動靴と言うよりゴム靴だった。当時これが、また配給制でしかもくじ引きで、二学期にゴム長靴二足とゴム靴三足がクラスに来て、ゴム靴一足が自分に当り買ってもらった時は、大へんうれしく大事にはかなくてはと思ひ、それがゴム質が悪く、一ヶ月ぐらいで破けてしまったことなど、今でもよく覚え



当時の農場跡

ています。

五年、六年生に農場作業の時間があり、学校の南や大安寺川の川端に少々畑があり、冬作は麦。夏作は甘藷が作付けされ、作業の前日に先生から芋苗、肥料、備中、くわ、など各自持物が定められ、持ち寄って栽培し、収穫された芋を学校で、蒸して全生徒が教室で間食しました。こうして右肩にカバン、左肩に備中をかっいで小学校に通った者は、私たちの年代の者だけだと思います。

現代はお芋さん畑も少く、真に忘れられようとしている今日ですが、戦後しばらく甘藷の存在価値は高かった。今年に入って新聞やテレビなどで地球上に、異常気象が伝えられ各地で干ばつが続く作物がとれなかった地方があります。汚染公害問題も加わり時代が変われば、変わった形で食糧難が来ないとも限らないような気がします。

## クラスの壁新聞

大栗 英 夫

私たちは戦後のベビーブームの子として、何かにつけて、騒がれて来た年代です。その私たちが小学校に入学

した昭和二十九年頃は、やっと、敗戦による苦しい貧困、混乱から抜け出て、経済的にも、社会的にも立ち直りつつあったけれども、現在のように、何もかも、使い捨ての時代ではなく、物を大切にすることが美德とされた頃です。例えば、鉛筆、消しゴムなどを、友だち同志で、。こんなにも小さくなったぞ」と互に自慢し合ったものです。今思うと随分、滑稽のような気もしないでもないのですが、でもそんな中に私たちの楽しさがあったのはまちがいないのです。

小学校時代の記憶と言うと、もう十数年を隔ているので、鮮やかには思い出せないのですが、ただ、あらゆることに對して、一生懸命に取り組んで、無心に駆けずり廻っていたことを思い出します。各種の体育大会が盛んに催され、団体競技としては、ドッチボール、ソフトボール、名称は思い出せないのですが、確か、バスケットを変形しようなどの大会があり、それぞれ、学年優勝を目ざして、試合に、応援に、クラス全員、一致団結、さらに個人競技には徒手体操、マラソン、縄飛び等があり、中でも縄飛びは、小学生としては相当高度なもので、六年生となれば、後二重飛びなるものをやらされました。これは今思っても、大変難しいものであると思います。

この縄飛び大会の前は、皆、不得意の種目の練習に励み、中には勿論全て出来る人も何人かいましたが、その



たのしかった修学旅行

人たちはその人たちで、さらに高度なものへと挑戦し、とにかく授業前、休み時間、放課後と、運動場には一面に色とりどりの縄が飛び散っていたものです。さらに忘れ難いことは、小学校の二年の時、遅くまで残って、丹羽先生に、絵について御指導を受け、数回の写生大会にも引率していただき、絵を書く楽しさを教えていただいたことです。そしてあまり上手ではなかった絵も、四年の時には、稲葉郡の最優秀賞を思いがけもなく受け、大変、嬉しく思ったことがあります。

また、四年から六年まで担任であった足立先生のもとで「けやき」というクラスの壁新聞、日刊新聞の編集を、放課後、遅くまで残り、またあの頃は先生の宿直制もあって、先生の時には、先生とともに学校に泊り込んで数人の友だちと一生懸命に取り組んだ思い出があります。特に、泊った夜などは、先生と色々な話を話し合い、教室では知らなかった先生の色々な面を知り、非常に身近かに感じたものです。また授業面では、小学生の時しか味わえなかった家庭科の時間が非常に懐しく思われます。少し恥ずかしさはあったけれど、おふくろから借りて来たエプロンを掛けて、目玉焼き、カレーライス等を

に一層の発展を祈る次第です。

## カヤ張りのキャンプ

伊藤 正史

百年誌編集にあたり小学校時代の思い出を、とのことで筆をとりました。自分の脳裏に浮かぶまま、筆を進めたいと思います。

まず浮かびますのは、ブリキ製炭火弁当保温箱であったためた弁当のおいしさ。各児童が順番に持ちよった、薪や野菜のみそ汁給食。先生にしかかれて鼻をつまんで飲んだ脱脂粉乳ミルクのまずかったこと。

次に、楽しかった小伊木川原での蚊張りのキャンプ、各部落ごとりにヤカーに薪や食料、食器、テントがわりの青蚊帳を積み込み、ガタゴトと川原へ出かけたものでした。

また、片道四キロの登下校時の道草。春には、シーシ葉、いたどり、すかんば、甘根を取って食べた。夏には流れ川で、四十センチものなます・ふな・しじみなどを取り、ズボンを泥だらけにしたこと。秋には、伊木山のまつたけ・たちうす・すずばば・山ぶどう・山柿をとって食べた。冬には、雪合戦をやりながらの道中、畑のこえだめに落ちたこと。こんな思い出が数多くあります。

作り、互いに。俺のが、私のが一番うまいぞ。と言い張って自慢し合い食べたこと。そして自分が不器用であることを、幼心にも分らしめた裁縫の時間での雑巾作りや、ロウケツ染め等、楽しい思い出は数限りなくあります。そんな時期に起きた、あの東海地方全域を襲った、伊勢湾台風は、多くの家を破壊し、人々を恐怖のどん底へ落し入れました。私たちの学校の生徒の中にも、家を壊された人があり、皆でわずかながらも募金をしたことを思い出します。

丁度その頃、練習に励んでいた小学校時代最後の体育大会が中止になって、今もって残念な気持ちでいっぱいです。またその反面、伊勢への修学旅行が三月に延期され、京都、奈良に変更になり、皆で大喜びしたものです。多分その後からだろうと思います。京都、奈良への修学旅行は。

他に心残りなのは、毎月の小遣いの残りの一円玉をプラスチック製の容器に貯め込んだり、廃品回収等をして建設に協力したあのプールに入れなかったことです。このように色々なことを思い浮かべると、何かにつけて、御指導いただいた諸先生方、並びに仲間の顔が大変懐しく思い出され、会いたい気持ちもどことなく湧いて来ます。

最後に鶴沼第一小学校、我らの母校百周年記念文集に、寄稿させていただいたことを嬉しく思います。さら

現在の子どものおかれている生活環境と、我々の時代の生活環境を比べますと、かなり違ってきます。環境の違いが人間の成長、発展の上でどんな違いを起こすかを考えて、今日の家庭教育、学校教育、社会教育を押し進める必要があるのではないのでしょうか。現在の子どもたちは、自分の意志で自由に行動することができず、大人によって決められたベルトコンベヤーの上に乗せられて生活しているのではないのでしょうか。

次に浮かびますのは、自分の目標を決め、段階を追って、継続して練習に励み、最高の段階に合格し、自信を得たなわとび、鉄棒、飛び箱などの器械運動会。

冬に行なわれた全校マラソン。五年生は、桑畑コース六年生は、ヨメフリ坂往復コース、苦しかったが、敗けるくやしさに歯をくいしばりゴールイン。

こんな思い出もあります。このように、誰でも、練習すればできるようになり、自分で目標を決めることができ、練習成果がはっきりする運動は、現在の小生の体力あるいは精神力をつちかってくれたのではないだろうかと思われ、恩師に感謝する次第です。

## 年12回りの遠足

橋本 毅

私が入学した頃は、西に小学校、東に中学校と隣り

合せに並び、その南に道路を隔てて保育園があり、いずれも木造の古い建物でした。当時は教室も薄暗く、体育館とか、プールなどはなく、そのかわりに、樹木や草花がもつと多かったように思います。今にして思えば保育園の方が新しく、立派であったようですが、周囲のもの全部が目新しく、そんなことには露程も気がつかず、上履を手を持ち、喜々として通学していました。自分がなにか偉い者になったような、気持ちさもありました。一年は三クラスで、一クラスが五十幾人かで、いつも騒然としたもので、先生方も手を焼かれたと思います。

春は大安寺川の桜の下や、ナタネの花の間でチョウを追いかけて、夏は学校の帰りに川で、魚やザリガニを取るのを楽しみ、冬は箱型の保温器で温めた弁当を、湯気を立てて食べるのを期待して通学し、小学校の一、二年は過ぎました。この弁当は確か三年か四年の時に、給食になり、その楽しみもなくなりました。この給食には、ミルク（脱脂乳で、冷えると下にざらざらした粒が残る）、お世辞にもうまいとはいえず、時々気分が悪くなりさえたものでした。中学年になると、教室は段々西の方へ移り、職員室に近くなり、遊ぶことに熱中しました。また、当番を決めて、兎や金魚を飼い、朝早く家を出て、えさを集め、大事に世話をしたのもこの頃です。

その他、ガラス瓶でヒヤシンスなどの花を育て、窓辺に並べたり、カエルの卵をとって来て、水槽の中でカエ

ルになるまで飼って観察したりもしました。しかしこれらその後、どうしたかは記憶に残っていません。理科の時間に川へ魚をとりに行ったり、体育の時間に雪合戦をしたりしたことが思い出され、今とくらべて、楽しく、のんびりしたものでした。

高学年になると、各務原の農場（現在のニッケ工場のあたり）へ年に二回程出掛け、麦と、芋をつくっていました。もともとも作るとはいっても、実際には、父兄の方にしてもらい、私たちは野ネズミの穴をつついたり、他所の畑を掘り返したり、いたずらをするのが仕事のようなもので、楽しいものでした。ですから私たちは年に四回も、遠足があるのと同じですから、その楽しみかたは分ってもらえると思います。二昔も前に近いことで、余り記憶がはっきりしませんが、以上のようなことが思い出されました。



大安寺川

特筆すべきことは、校庭のまん中に今でもあるケヤキの木のことです。青々と葉を傘のように広げた姿寒そうに葉を落した枝が四方に広がった姿が、すぐ目に浮かびます。まるで学校の主のようなケヤキの木を大切にしたいと思います。

は、たいへんな道ゆりで、暑い夏などは、てくてく歩いて行くのは、とつともつらかった。

服装は姉妹が多いので、どうしても末っ子は姉たちの古着で、モンペのひざや服の袖はすり切れて、つぎの当ててあるものばかりを着せられていましたので、正月に新しい下着と服を着せられてうらやま、とつとも、うれしかったものである。

はき物はわらで編んだぞうりか下駄で、ゴム靴を買ってもらって履いて、学校へ行くのが得意だったことがある。

三年生の頃になると、世の中もだんだんと落ち着きはじめ、学校の中の行事も、いろ／＼と行われるようになった。学芸会は南の校舎のしきりをはずし、教壇を積み重ねて舞台にし二日にわたって行われた。父兄は皆弁当持ちで見に来て、一年の行事のうちで、もともとも楽しみにしているものでした。先生も生徒も放課後、いっしょにうけんめい練習したものです。

稲葉郡下小学校の音楽部の、コーラス発表会があった。課題曲と自由曲があつて、どの学校が一番かと競い合ったものである。

七夕の時は、運動場に舞台を作って、きれいにかざり夕方から歌や踊りで楽しく祝った記憶がある。しかし今の子どもたちのような、六年生の修学旅行だとか、キャンプだとかいった思い出はない。くらはは貧しかったが

### さつまいもと給食

山田久美

小学校を卒業したのは昭和二十六年で、それから、もう二十二年も過ぎていく。今私の頭の中は当時の有様が走馬燈のように走っていく。何から書いてよいのやら、あの運動場の真中に今も変らぬ壮大な姿を見せ、そびえ立っている。けやき。の母校の思い出は数知れない。

小学校に入学した当時は、まだ戦争が終つておらず、食糧と物資の不足した時代でした。教科書は上級の子のお古を借り、ノートも、表は字が印刷してあるのを、母が折って綴じたのを使った。通学路の途中には防空壕が作つてあり、空襲警報が鳴つて部落ごとに、上級生に手を引っぱられて、穴に避難したことが一、二度ある。

一年生の八月十五日、戦争に負け終戦となつたが、それからは食糧と物資の窮乏も、もつと深刻となり、弁当を持つて来れない生徒がいて、学校をよく休む子が多くあつた。しばらくして給食が出るようになったが、それはさつまいものふかしたのが、二つづつだけだった。

各務原の。しんかい。という所に農場があつて、そこに、さつまいもを作つた。一ヶ月に一回は、その農場に出かけ、肥料をやり草引きをして、さつまいもを育て、取れたいもは給食や教材費に充てた。学校から農場まで



現在の音楽会

貧しいうちにも、素朴な思い出が残るよう御指導下さつた先生たちに、今更ながら感謝している次第です。

今、我が子も母校にお世話になっていきます。親子二代この伝統ある学校に学ぶことが出来、たいへん光栄に存じます。

我が子も、この学校の象徴である。けやき。のごとくすく／＼成長することを望みます。……

### 給食風景



終戦直後の子どもたち

## 終戦後の卒業生座談会

一、月日 昭和四十八年九月二十日  
 一、場所 新校舎 金武学級  
 一、司会 武藤健一  
 一、記録 片桐玉江

### 【出席者】

大倉 利光	小伊木	昭和三十八年卒業
加藤 天啓	小伊木	昭和三十六年卒業
加藤 寿久	山崎	昭和三十六年卒業
藤田 正弘	東町	昭和三十五年卒業
板津 洋子	東町	昭和四十一年卒業
坂井 孝	西町	昭和二十三年卒業
武藤 政子	西町	昭和三十年卒業
岡部 豊	大伊木	昭和三十九年卒業
山田真由美	大伊木	昭和四十一年卒業
勝野三千人	南町	昭和三十年卒業

**司会** 今日、ご出席いただいた方たちの間では、ちょうど二十年程の年代の中がありますが、まず、終戦前後の、学校の様子から、お伺いします。

**勝野** 私は終戦の年に卒業しました。当時一番思い出に残っていることは、物資不足。ということですね。そして全てが戦争一色でした。

**司会** 戦争で物資不足のため、教育材料、遊具などはなかったわけですね。

**勝野** 教育材料は勿論、おやつ、遊具なども殆んどありませんでした。

**司会** 校舎はどのようになって、いましたか。

**勝野** 雨もりなどはなかったようです。でも、今とくらべると、ずっとお粗末でした。

**坂井** 私は、二十三年に卒業しました。現在は、下の運動場が、中心になっていましたが、当時は上の運動場でした。けや木の木を中心に、朝礼や、運動会を行なったことを覚えています。建物は「東舎」「古い物置き、工作室」がありました。また、今の南校舎のすぐ下が道路になっており、授業がいやになると、窓から下の道をのぞいていたものです。火の気や、電灯は全くなく、火の気のないために、真冬の当番は、大変身にこたえたものです。

**武藤** 私の頃は、上の運動場が、小学校で、下が中学校になっていました。後は、現在と殆んど同じでした。

ただ、体育館は建っていませんでした。

**藤田** ぼくが、卒業する時にプールが出来かけていました。プールを建設するために、廃品回収が行われて、ぼくたちも手伝いました。その後、お札にパンをいただいて食べて家に帰ったものです。後は今と殆んど変わっていません。

**加藤** ぼくたちの時に、プール開きがありました。その時ぼくたちは太田へキャンプに行っていて、残念ながらプール開きには参加出来ませんでした。ぼくたちの時に体育館も出来ました。体育館が出来た前は、卒業式は今の職員室の二階で行なわれていました。

**司会** 恩師の中には、戦前と戦後にまたがって、教育された先生が見えたことと思いますが、終戦後の、その先生方の様子はどんなでしたか。例えば戦前のことを言われたりする先生はありますか。

**坂井** 戦中の教育も受けて来たが、終戦で先生の様子が、ガラリと変わったという記憶はありません。

**司会** 先回の録音会では、戦前の教育を望む人がありました。皆さんはどう思われますか。

**加藤(天)** 今の教育はむづかしいと思う。ぼくの入学した頃は勉強は易しくてスムーズに行った。また、ぼくは、中・高時代になった時、非常に先生がたよりなく思った。今は性も発達して、先生は性教育も、あからさまに教えるようになった。今の先生はたよりない。かつて

の先生の方が、中味が濃くてよいと思う。

**武藤** 私の時の校長は服部校長先生でした。月曜日の朝礼のたびによく聞いた。お話でしたが「レンガを積むには一つ一つしっかりと積み重ねなければならぬ。その内の一つでもくずれると大変なことになる。勉強もそれと同じで順番に積み重ねて一生懸命勉強しなさい。」というお話でしたが、今でもそのお話を何かことある毎に思い出します。

**山田** 私たちの頃は伸びくと生活 ました。遊ぶ時とか、花作りには先生も仲間入りして下さって一緒に遊び一緒に生活して来ました。

**板津** 私も、先生と一緒に遊び給食も一緒に食べたりにして、温かい雰囲気であったことが、思い出として残っております。

**岡部** ぼくの頃には、坂井田先生がおられた。今は鶴二小におられると思うが怖い先生だった。先生は「実行」ということを常に言われた。六年生で作文を書いた時、どの人の作文にも「実行」ということが書いてあったようです。

**司会** 昔は天長節、紀元節などがありました。戦後はどうでしたか。

**声** 「そんな言葉は、ちっとも知らない」「そんなものは全然知らない」「聞いたことない」

**大倉** そう言う言葉は親から聞いたことはあるが、学

校ではそういうことはなかった。

**坂井** 天長節は覚えています。今の体育館のところに、当時、奉安殿や、二宮金次郎の像があり、そこで式典が行われました。また、当時は部落で「新嘗祭」というのが行われました。当日はその部落のものは、学校の早退が許されて、祭りに参加したものです。

**司会** 行事で、特記すべきものは、どんなのがありましたか。



座談会風景

**武藤** 文化祭というのがありました。夏休みの作品などを、全校舎を使って展覧し、父母が見に来ました。また、部落別の七々祭りも行なわれていました。

**岡部** ぼくたちの頃は、体育館で、夏休みの作品展が行なわれました。

**勝野** 戦前は、野菜などの品評会が行なわれていたようでした。

**加藤(天)** 今は、そういうのはないですね。

日記を毎日書いて出すように言われたが、ぼくと友だち二、三人が日記を出さなくて先生に叱られたことがある。それ以外は遊びに一生懸命でした。伸びくるとよく遊びました。今は平和が過剰気味ですね。それがかえって交通戦争と呼び、公害問題を起こしている。

**山田** 河原に遊んだり、野いちごを取って食べたり、いも作りをし、作りたいものをふかして食べたり、自然に親しむ気持が強かったですね。とても伸びくるとしていて楽しかった。

**藤田** 私の六年の時は、一番横着なクラスではなかったかと思う。担任は小川先生といって、毎日宿題を出された。そして十人位いつもやって来ない人があり、その度に職員室に呼び出され、立たされたものです。私も、宿題をやらなくて、よく立たされました。先生は「和」を重んじ「協調の精神」を植えつけて下さいました。今、小川先生にあつたら、あやまりたい気持ちで一杯です。

**司会** 塾は、どうでしたか。

**武藤** ソロバンと習字くらいでした。

**司会** ビアノとかオルガンなどの塾があるようになってのは、いつ頃からですか。

**山田** 私たちの頃は、まだそんなのはなかったですね。  
**坂津** 四年生位になって学校で習う程度でした。今の

ように小さいうちからはやらなかったです。  
**司会** 遊びはどんなことをされましたか、終戦直後は

**司会** 遠足はどのようでしたか。

**坂井** 戦中・戦後の遠足のお弁当は、梅干し入りのおにぎりときまっていたようです。おやつは、焼いも、柿、砂糖きびくらいで、リングがあればよい方でした。また二十三年に修学旅行で、京都奈良へ行きましたが、市内は乗物はなく歩いて見物しました。はきものはわらぞうりでした。そしてリュックの上には予備のわらぞうりを一足つけて行ったことを覚えていました。

**武藤** 三年生頃までは、おかしなどは余りなかったような気がします。遠足でおやつは統一はなく様々でした。修学旅行は伊勢神宮へ、行きました。

**加藤(天)** 修学旅行は京都、奈良へ行きました。  
**司会** 修学旅行のコースが、伊勢神宮から、京都奈良に変わったのは、いつか、伊勢神宮へ参拝することが禁止されたのでしょが。

**加藤(天)** そういうことは分らないが、交通がよくなくて京都奈良の方へ行くように、なったのではないかと思う。

**石田洋吉先生** 現在、遠足は春は近くへ歩いて行き、秋は乗物を利用して、よいことになっています。

**司会** 今は、よく教育ママという言葉聞きますが、以前はどうでしたか。

**加藤(天)** ぼくは学校の授業以外に、勉強したことはなかった。しいて言えば四年生の時、特に宿題として、

ともかく、後になっては物資も豊富になり、遊具もかなり増えてきたようですが。

**岡部** テレビが行き渡ってからは、テレビの影響を受けたようです。「月光仮面」などがそうです。その他目立った遊びは、河原で花火をやったことです。

**坂井** 買ったおもちゃは殆んどなく、竹や木で作ったおもちゃばかりでした。竹馬などよくやりました。木登りもよくやりました。

**司会** 三十年以後の人で竹トンボや竹馬を、作った人はありますか。

**岡部** あき缶に穴をあけ、そこに綱を通して乗って遊んだ覚えがあります。竹馬でも遊びました。

**藤田** バンコ、かちん玉が全盛だった。砂陣取りと、いうものもやりました。

**加藤(天)** 三十八年頃までは、手近なものを利用して、作って遊びました。遊びを戦前、戦後と分けられるのは一寸おかしいと思います。ぼくたちの頃でも、いろいろ利用して遊んだし、たこ上げなどもしました。

**司会** 女の子の遊びには、どんなのがありましたか。

**坂津** 私たちも、竹馬などしました。やはり手近の物を利用して作ったもので遊びました。例えば、ゴムひもとび、縄とびなどです。

**坂井** 私たちの頃は、ずっと後の方たちの遊びは、内容が同じでも、私たちが遊び方にも野性味があ

ったような気がしますね。

**司会** スポーツ的なことはどうでした。例えば、水泳などは。

**勝野・武藤** 私たちの頃は自由に川で泳げました。勝野 川で泳ぐことが禁止になったのは、いつ頃からでしょうか。

**加藤(天)** プールが出来てからではないですか。今は川が汚なくて泳げたものではない。汚ない原因は工場排水や団地の汚水が、流れ出ているからです。

**武藤** あの頃は、川で泳いでいても事故の話は、一・二度しかなかったと思う。やはり今よりも私たちの小さい頃の方が、楽しかったと思いますね。

**勝野** 遊びも、泳ぎもずっと変わったのは、ごく最近になってからということですね。

**加藤(天)** テレビが行き渡って、変わったと思います。ほかの家では三十五年にテレビを買ってもらいましたが。

**司会** 三十年以後というと、伊勢湾台風があり、オリンピックが行なわれたりしましたが、皆さんの中で嬉しかったこと、悲しかったことなどで、記憶にあることを一つお聞かせ下さい。

**勝野** 私たちは卒業直前の頃は、只もう、この戦争はいつ終わるだろうか、本当に勝てるだろうか、そんなことばかり思っていました。

**司会** 六年生頃で、もうそんなことを思われたのです

が、そのことは今になってプラスになったか、それともマイナスになったと思われるか。

**勝野** 今になって、結局、政治家というものは国民をだますものなんだなあ、思うようになりました。

**司会** あの頃は敗戦が境いでそれまでのことが、無駄あるいは、駄目になったように感じられた。そして政治などについては不信感が育ったのです。その点、今の若い人たちは幸せだと思いますか。

**坂井** 私は勝野さんのようにまでは、思いませんが、たが、ドングリ拾い、桑の木皮むき、草刈りなど目方をきめられて作業をさせられました。また飛行場に行くとかいうことで、全校揃って小伊木河原へ、石拾いに行った覚えもあります。あの頃は考える間もなく、追い立てられました。

**司会** 当時は、戦争のためにドングリ拾いや、桑の木皮むきなどを、学校中あげてやったのですが、今の若い人たちが何かの目的に向けて、学校中でやったというようなことはありませんか。

**山田** 私たちも自分のために、運動場の石拾いをやりました。また教材のための作業もしました。目的は違っておりませんが、私たちにやりました。

**司会** 集団登下校について、お聞かせ下さい。  
**坂井** 普通、集団登下校はなかったと思います。只終戦直前の頃は、空襲警報がよくあって今とは違った意味

の集団下校をやりました。一度などは集団下校の最中に空襲警報がなり出して、鶴沼宿のところにあつた防空壕へかけ込んだ覚えがあります。その後、空襲警報が激しくなつて学校へも行けなくなつて、お宮で勉強したこともあります。

**加藤(天)** ぼくたちの頃は五、六年頃から集団登下校が続いていたと思う。

**武藤** 自由通学だった。ただ、朝だけ近所の友だちを誘い合つて通いました。

**山田** 登校する時と、土曜日の下校だけ集団でした。  
**司会** 学校で先生に教えられたことで、役立ったことか、教訓を身に沁みて思い出したことが、あつたら教えて下さい。

**勝野** 今、痛切に思っていることは、私たちは一年の時から作業ばかりで、勉強よりも作業においまくられた

と言つた方がよい。そのお蔭か勤労精神は誰よりもずば抜けていると思います。現在、日本の国がGNP世界第二位ということですが、その日本の生活の中心、労力の中心となっているのが、戦中の軍国精神に徹した教育を受けた



座談会風景

私たちです。その成果で世界有数の経済国になったのではないかと思います。とにかく、私の頃の校長先生が、何でも「日本一」にならねば、気の済まぬ先生でドングリ拾い、桑の木皮むきは常に日本一でした。

**司会** 「日本一」で一寸別のことになりましたが、当時大伊木が取引量で日本一になられたそうですね。最後に、皆さんの子どもさんが学校へ来られる場合、どんなことを望まれますか、あるいは自分たちの頃と同じでよいと思われませんか。

**大倉** ぼくたちの頃のあのやり方でよいと思う。「勉強、勉強」というよりも、伸び／＼と教育して欲しいと思います。

**山田** 時代に添って教育せねばならないだろうが、今の小さい子を見ていると可愛想になる。私の頃のように遊びの中から学ばせて欲しいと思う。そういう知識は、一生忘れないから……」

**板津** 「勉強、勉強」と強制するのは可愛想です。私の頃は、学びと遊びとのけじめがありました。今は遊びはなく、勉強一本で可愛想に思います。自分の子には「進んでやる子」になって欲しいと思います。

**加藤(天)** 時代の流れには逆らえないが、昔のままでよいと思う。自然の解放された場を作ってやり、その方面へ伸ばしてやりたいと思う。

**加藤(天)** 方針に添ってやって行くことにしたい。やはり

学校の方針に従うしか、仕方がないのではないかと思いません。

**武藤** 子どもは、子どもなりによく考えていると思うから、「よく学び・よく遊び」を念頭に責任を持って、最後までやり抜く子になって欲しいと思う。私たちの頃と同じ教育がよいと思います。

**坂井** 教育は進歩し、高度になって来ているから勉強はもっとやらなければいけないと思います。ただ押さえつける教育はいけません。これからはもっともっと、複雑化するからおおいに勉強をやる必要があると思います。また最近の子は辛抱するということがありませんね。もっと忍耐力を持たせて欲しいと思います。

**岡部** ユニークさを持った勉強の仕方をして、欲しい、また、勉強の仕方から教えて欲しい。

**藤田** 宿題だけは、最少限にして欲しいと思います。また、行動に移せるような子どもにして欲しいと思います。

**勝野** 恵まれた環境の中で勉強する子どもたちは、本当に幸せであると思いますが、質実剛健の気風を忘れぬように教育して欲しい。

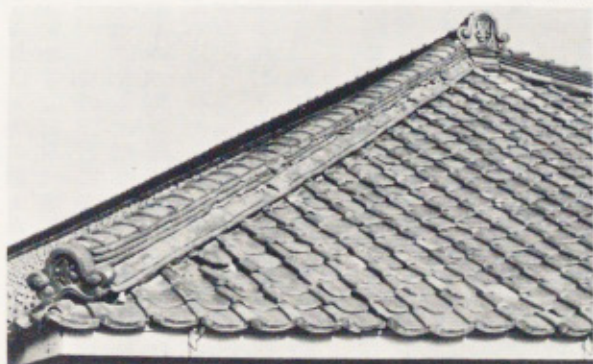
**司会** 本日は、皆様方、公私共にお忙しいところを曲げて、御出席下さり、いろいろとお話をしていただきまして誠に有難うございました。これにて座談会を終わります。

## 鶯一小の思い出

蒲 みどり

思い出といっても、私は四年生の終わりにひっこしてきたのであまりないのです。でも、先生も友だちにもすぐなれたのは、この学校のもっている何かだと思います。その何かとは私自身よくわかりません。この学校について感じ悪いと思ったことはありません。こんなこととおせじのようにきこえるかもしれません。本当のことです。こんなことが、友だち先生にすぐなれたものかもしれません。やはり、自然の中に囲まれているせいでしょうか。どの友だちも、諸先生方も、穏健な人がらでした。だからこそ、私をはじめ、転校生の人たちはすくなじめたのだと思います。

私が特に感じたことは、先生についてです。どの先生も、私たちのことを考えてご指導して下さいました。たとえば、まちがった考えを主張している人にも、始めから、「それは違うんだ」とはきめつけず、その人がなつとくいくまで説明なり、討論をしてくれます。こんな生徒のことを考えてくれる先生は、なかなかいません。小学校時代に「あの先生」と思っていた先生でも、今になって考えてみれば、私たちのことを心配して下さったからだと思えます。



当時の鶯一小の屋根と鬼瓦

## 私の母校

渡 辺 由起美

鶯沼小学校創立百年を迎え、伝統ある母校を持つ私は、今始めて正門をくぐった時のことが、走馬燈のように思い出されます。

太陽をいっぱい受けて、学校周囲の稲が青いじゅうたんをしきつめたようにひろがって、キラキラ輝いていました。夏休みに入り静まりかえった校庭、そこに高くそびえ立っている巨大なけやきの木からは、せみの声が私を迎えてくれているかのように合唱していました。校長先生が、学校の様子を話してくださって、創立九十五年、明治の開校当時の想像など、そのお話はほこらしげに聞こえました。

私は、四年生の七月二十九日、名古屋から転校して来て、正式に鶯沼小学校の生徒の一員となりました。二期に入り、不安な気持ちを持って、学校へむかった私を迎えて下さったクラスの先生、友だちはとても暖かく、優しく導いて下さいました。都会の中では味わうことのできない人とくく暖かい触れ合いを肌で強く感じた私は、この学校に転校して来たことが、これからの人生にどれだけ有益かを深く感じました。

四年生の時の担任は、藤村幸親先生。とても優しくして



詩の好きな藤村先生は、ご自分の本を出されたほどの人。今でも年賀状に、自作の詩をすり込んだはがきをいただき、素晴らしい先生。五、六年の時は、長谷川恭子先生。今までも、これからも、私の学生生活で一番忘れられない先生でしょう。教育熱心で、勉強に人間性にと、どれだけ私を向上させて下さったか。私の最も尊敬している先生。それらの先生方に見守られ過ぎた楽しい遠足、運動会、修学旅行、悲しいことも、つらいことも、楽しかったことも、今はなつかしい思い出となっています。それらの素晴らしい思い出を胸一杯つめて、四十七年三月卒業いたしました。

私たちの勉強した教室がだんだん姿を消し、新しい校舎が建っていきますが、この学校で学んだそれぞれの人々の思い出とけやきの木。百年の伝統は、これからも消えることのない年輪を重ね、栄えることを信じ続け……。

## 鵜沼第一小の皆さんへ

若尾勇夫

ぼくが「鵜一小」と聞いてうかぶイメージは、すきま風の通るオンボロ校舎と立派な交通コーナードという、古い物と新しい物が混合した、学校だが、現在、こんなことを言ったら笑われるだろう。

今では、モダンな新校舎も完成しつつあり、新しい校風も生まれて来ただろう。そしてすべての面でレベルアップしたにちがいない。

しかし、この学校にも伝統というものは、根強く残っている。先ばいたちからうけついで、伝統を自分たちの手で守ってほしい。

たとえば、運動会、学習発表会などの重点行事、それに見童会……。

「児童会と言えば、ぼくが六年の時、会長を努めたわけだが、ぼくはゴミ集めをやったことを記憶している。毎日、クラスメイトらと懸命に拾い集め、調査し、全校生徒に呼びかけた。高学年の生徒は覚えていと思うが。」  
以上のような自主行動を、今後の児童会も進んでやってほしい。

それが伝統を守ることにつながり、自己の責任を果たすことになるのだ。

一日一つはよいことをスローガンに、自分たちの目標が達成できるよう、がんばってくれたまえ。

それが、ぼくの、いや、みんなの心に残る鵜一小を造り上げることになるのだ。

## 小学生時代の思い出

吉田弘幸

思い出とは、不思議なものである。中学生という高校受験を気にする中で、いま第一小学校時代のあの平和さと、学級委員と副会長をやったときの、快い緊張感がなつかしい。ぼくは、四年生のとき転校してきたため、三年間しか在籍していなかったが、中学に進学する時期にかよったということは、まったく大きなことだ。運動会音楽会、児童会と、平凡な生活を送る自分に、変化をもたらしてくれた行事を、楽しみにし、また計画していきたくていつも思っていた。

そんなぼくを見守ってくれた。けやきの木と、あのどっしりした木造校舎、毎日ゆかをぞうきんがけしたものだ。それに似合わず、りっぱな体育館と、近代的な交通コーナード、それらは、百年の歴史と現在の繁栄を物語っているようだ。さらに今、着々と新校舎が建てられていく。旧校舎が鉄筋になることは、少し寂しい気もするが、近代化の証明でもあるのだから、たくましくも思う。また、恩師長谷川先生には、ぼくのとほしい作文力に喝をいれ、さらにはぼくのリーダーシップについて、毎日のように指摘され、当時は小学生はなれした悩みを抱いていたものだった。それが中学生になって、生徒会

の会計をやり、また現在、会長をなすとげつつあるぼくの、原動力であることは確かなことで、今後もご指導を望んでいる次第です。

ぼくは、百年前の様子など想像できないが、百年の歴史のおもさを感じている。百年のうち、三年間というあまりにも短い期間だったが、鵜沼第一小学校の卒業生であることをほこりに思い、ふと思ひ出す校歌。流るる木曾の水清く……。そんな時改めてぼくは、鵜沼第一小学校を卒業してよかったなあと思うのである。

## 鵜沼小百年祭にあたって

徳重浩

ぼくが鵜沼第一小学校の卒業生の一人として「一番思い出となっていることは」と、聞かれた時に、まず、あの大けやきが、頭に浮かんでくる。このけやきの木は、高さ十数メートル、木の直径が太いところで、八、九十センチという、非常に大きなものだ。ぼくのきいたところによると、今から六十数年前に植えられたそうだから、ぼくより五倍ほど、年上だということになる。そして、ただ大きいだけでなく、鵜一小のシンボルのようなもので、校歌の中にもあり、校長先生のお話の中にも時々、でてきたりした。また、文集の名前にもなったり、作文、

写生の対象となったりして、万博の太陽の塔、東京タワーのような立場にあったともいえよう。

けやきも古いが、学校自体の歴史も古く、明治になって、学制発布や義務教育の普及などで、数多くの学校ができ、鶴一小もそのうちの一つであった。そのころは、校舎などはなく、個人の家で授業を行っていたそうだが、今と比べると小規模なものだっただろう。

そして、その鶴一小も、今では、学級数は三十一に達し、生徒数は千二百人に及ぶという大きな学校になっている。しかし、現在では、このことがなやみの種となっているが、これも新校舎の完成と第三小学校の設立ということで解決しそうだ。

この新校舎は、ぼくたちが五年生の時から工事を始め、もうすぐ完成するということで、鉄筋三階建てのりっぱなものだ。ぼくがこの学校に転校してきたのは、三年生の時であったが、その時はもちろん、木造の旧校舎で、廊下を歩くと「ギシギシ」となったり、教室で勉強をしているとすきま風が、はいってきたりするというようなものであった。また、トイレもくみとり式であまり衛生的ではなかった。しかし、そんな校舎でもやはりとりこわされるときには、何かさびしいような気がしたものだ。校舎だけでなく、色々な設備も充実して新しくなり、また、児童会なども活発に活動するようになった。自分たちの手で、なるべく先生たちの手をかりないようにし

て、児童集会などを行なったりするようになったのは、とてもりっぱなことだと思ふ。

この鶴一小も百年を迎える。百年というのは一つの大きなめぐりだ。このめぐりから、新しく鶴一小が今よりも、もっともとりっぱな学校にし、その輝かしい歴史をいつまでも保ち続けてほしい。あの大きなけやきのように。

## 旧校舎での思い出

六年 渡 辺 由紀代

「カンカン」「コンコン」「ガシャーン」と、きょうも新校舎の建築がさかんにおこなわれています。とても近代的な感じがしりとした鉄筋校舎が、こんなになりっぱになつて、百年前の人は考えたでしょうか。きっと夢にも考えなかったと思います。だって、私が一年生に入學してから六年間たっただけなのに、ずい分変わってしまったのですもの。

「あー、思い出すなー。」

あの古い校舎を。入り口の戸がしまらなくて、いっしょけんめいあけようとしたら、ドタンとはずれてたおおれてしまったし、三つも校舎のむねが並んでいて、そのつぎ目の階段が危くて、よくおしあつて廊下を歩くと、

ころんでは、先生に注意をうけました。

それに校舎の中もくらしいのに電灯がついていないので雨の日は黒板の字がみえなくて、困りました。また、天井からねずみのふんがおちてきたこともありました。給食の時、天井でねずみがバタバタ走ると、ゴミといっしょにまいこんできては、キヤーキヤーいったことも、ダニがいっぱいわいて、先生のこしかけのフトンにぞろぞろはっているのを見て、みんなが、かゆいかゆいといひ出したし、S君はおへそまで出してかき出し、大笑いになったこともありました。

ゆかは、すきまだらけなので、そうじの時は、ゴミをこのすきまにはき入れてしまったこともありました。「そうそう、私は、五円玉をころがらかして、あの穴にはいつてしまって、くやしがりました。あの五円はどこへいったかなあー。友だちの消ゴムも三角定規も、みんなどこへいったかなあー。まだ、あの土の中にあるかしら？。それともほった土の中にまじって、すてられてしまったかしら。」

ぞうきんがけをしていて、板のはがれたのがささっては、保健室へかけこんだこともありました。今のようからぶきではないので、冬の寒い日はこたえました。

ストーブだって石炭をたくので、石炭はこびと木ぎれはこびと、紙あつめをしておかないといけないので、当番の日はとてもえらい思いをしました。たきおわった後

も、はいを取ってすてにいき、その後にきれいにぞうきんでふいておかないと、週番のおにいさんに叱られて、「X」がつかまりました。それで、はいをふいていると、自分の顔もまっくらになって、鏡をみてびっくりしたこともありました。

物おきに大きなふろ場があつて、そこでかくれんぼをしたり、友だちのカバンをかくしたりして、先生にとてもしかられ、立たされた子もありました。

雨の日は、雨がもって教室の後にバケツとタライをうけておくと、ポタン、ポタポタ、チン、カラリといろいろな音楽をかなでくれるので、しんとした教室にまたまた、笑いがとまらなくなるのでした。そして、天井には大きなしみができて、地図が広がるのです。そして、つゆ期には、そこにカビがはえてくるのです。

あー、思い出せば、いくらでも出てきます。なつかしい思い出が……。

けや木さん、あなたただけはこの私と同じ思い出を知っていますね。いいえ、もっとたくさんさんの鶴一小の歴史をだまってみてきましたね。

百年をむかえるこの学校の、大先輩のけや木さん。あなたの下で馬跳びしたことも、小雨の日の雨やどりをしたことも、夏の暑い日ざかりに木がけを作って、休ませてください。……。旧校舎の思い出と共に。

わたしは、この記念すべき百周年の年に卒業できるこ

とを喜んでいきます。

けや木さん。これからもこのりっぱな新校舎を照らし次々に育っていく子らを見守っていて下さい。そして、あなたと共に、鶴一小が卒業生の心のふるさととして親しまれ、かわいがられながら、ますます、りっぱになっていくことを祈りつづけます。

## 私たちの学校生活

五年 古池 真美

私たちの学校生活の中で、とくに目だった点を、一、二あげてみたいと思う。

第一は、集団登校。時間帯下校である。

これは、一つの区域を、一年から六年の十人前後の小さい班に分け、班長、副班長を中心とし、決められた時間に決められた通学路を通って登校するのである。そのため、登校中の大きなけが、交通事故は少ない。

そのうえ、交通コーナーが、運動場の東にあり、一週間ごとに曜日を決め、登校したとき、そこをまわって交通事故への考えを新たにす。交通コーナーには、信号横断歩道、ふみ切り等がとりつけてあり、交通安全の勉強に役だっている。

時間帯下校は、二時半から四時半までの間を三十分ごとにくぎり、下校の放送が流され、その時間帯にのって帰ることになっている。運動場で遊んでいた者は、いずれかの時間帯で帰ればよいのである。

このごろでは、「集団ではなく、好きな時間に、好きな友だちと、登下校したい。」

と、言う意見が出ているが、そのようなしかたで行くと、低学年の交通事故、登校中の大きなけがが、めだつてふえてくると思う。

やはり、高学年の五、六年がせきにんを持ちたい。

第二は、自転車の乗り方についてである。

これは、四年以上の者が、自転車のめんきよと同じように、ペーパードレストを受け、次に交通コーナーで実地試験を受け、先生に合格と言われた者だけが、黄色のタスキ、つまりめんきよのようなものを貸してもらい、初めて、乗ることが許されるのである。

しかし、タスキをもらったと言つて、どこの道路でも乗って良い、と言うのではない。黄色いタスキは、町道市道、安全な県道。一だん上の、緑のふちがついているのでも、国道は乗っていけないことになっている。

この規則をやぶったり、乱ぼうな乗り方をしていたら使っていたタスキはとり上げられ、また試験をやりなおさなければならぬしくみになっている。

このように、試験を受けて、乗るため今までに、自転車での大きなけが、交通事故などは少ないように思う。

その試験を受けることのできない三年以下の者は、親についてもらつて、自転車の少ない道で乗ったり、安全な広場などで乗っている。だから、四年生になって、自転車の試験に受かつた時は、とてもうれしそうだ。

第三は、鶴沼第一小学校の、本のたくさんある図書室だ。百科事典や、推理小説、歴史ものから、学校で毎朝とつている、小学生新聞をためてある本まで、いろいろある。

本を借りる時は、本は題名を一冊ごとに書いたはば三センチほどの図書ラベルを台本板にはさみ、返してもらつたラベルは、教室にあるピー紙に順々にはつて、何冊の本を読んだかが、すぐわかるようになってる。

「こんなたくさん本が借りれるのはいいね。」

と、母がいつも言う。

今、一番貸し出し数がふえてきているのは、「里見八犬伝」や「水滸伝」「織田信長」などである。借りたがつている者が多いので、とりあいになることも多い。

全校秋の読書週間には、各学級で選んだ感想文や本をたくさん利用した者を調べ、ひょう賞したり発表することも行なわれている。

本をたくさん利用した者の中には、一学期と二学期半ばまでで、四十冊近く読んでいる者もいる。

その他、図書委員会などでは、新しく買入れた本、一番多く、図書室を利用した学級などを発表している。

このように、鶴沼第一小学校は、いろいろ規則も多いが、本のたくさんある図書室、交通コーナー、大げやきなどすばらしいシンボルのある、りっぱな学校だと言えるだろう。

## けやき

四年 木下 一代

わたしたちは、四年生になってから、けやきの周囲の外そうじです。みんな、せつせとけやきの葉をあつめると、また、ひらひらと、おちてきます。

「あーあ、また、おちたのか」と。

「サツサツ」と、音をたてて、ほうきではく。ときには、くもつて、さむそうなとき、「あーあ、今日もやらかなか」と心の中でつぶやく。でも、そうじをしていると、いろいろ思ひだします。

一年生の入学のとき、大きなけやきをみて、びっくりしました。「あんな、大きなけやき、だれが植えたのかそだてたのだろうか」と。植えて、どのくらいたつて、芽をだしたのか。そんなことを、ふと考えてみるのが時々あります。

お父さんに聞いたら、昔は、このけやきは、運動場のまん中であって、運動会の時、けやきをまん中にして走ったことや、一度は、このけやきを切ると言う話もあったそうです。そのことを聞いたとき、わたしは、「切られなくて、よかったなあーいまでもかれずに、いるのだから」と思いました。

もし、けやきの木と、話しができたら、とてもたのしい話や、昔の話を、してくれと思います。

春夏秋冬、毎年毎年くりかえし、みんなの勉強しているところも先生が困っているときも、見ていたのですからね。「ガーア、ガーア」「なんの音か、わかるけやきさん。びっくりしているでしょう。木ぞうこうしゃから、鉄筋コンクリートのこうしゃができる音よ」と、わたしはおしえてあげたいと思います。わたしはけやきが、かわいそうに思えます。だって、七十年みてきた、木ぞうこうしゃから、鉄筋コンクリートの、校しゃにかわってしまっからです。

家に帰って、学校を見ると、たいくかんのやねがみえます。ちょうど、かまほこ形になっています。そのむこうに、くじやくがはねをひろげたような形で、けやきが見えます。

いままで、たくさんそつぎょうして行った人たちの、おもいでになっていることでしょう。「けやきさん」

これからは、鉄筋コンクリートのこうしゃをみまもつ

て、鶴沼第一小学校の思い出を、しっかり持っていつまでも長いきしてくださいね。」



## 新校舎

三年 大葉 とき代

わたしが三年生になるとき、てっきんの新校舎がたちました。わたしは新校舎の教室で一階の一番西がわです。三年生で新校舎の教室には古い校舎なので、四組と五組だけです。一組、二組、三組の子は古い校舎なので、すこしかわいそうに思います。みんないっしょに新校舎にはいれたらよかったです。

わさしは、はじめて新校舎にはいったとき、ろうかがびかびか光って、つるつるなのに、びっくりしました。そしてろうかを歩いていくと、トイレに気がつきました。女の子と男の子と目じるして、よくわかるようにわかれていました。そのうえ水せんだからとてもすてきだと思えました。

その横が、わたしたちの教室でした。中は白色でかべ

がぬってありました。ペンキのようなおいがしました。黒板はまだ一度も使ってなくビニールが、かぶせてありました。そうじ道具入れは、かけるところがついていて

とてもべんりになっていました。ロッカーも古い校舎のときより、少し大きくなっていました。まどは、じょうがついていて、あけたり、しめたりするのがべんりになっていました。なにもかも、とてもすばらしい新校舎だと思えました。

新校舎で勉強して二学期もすぎました。このころ気がついたことは少し新校舎をきたなくするようになったことです。

それはろうかや、ボール遊びをすることや、黒板けしをかべでたく子をよく見かけるからです。ボール遊びは運動場です。黒板けしをきれいにする時は、外に出すみの方でたいたらいと思えます。

このまえ教室とろうかあぶらぶきをしました。どうして、したかという、教室や、ろうかにきずがついているからだと思います。このきずもわたしたちが、ろうかですべったり、教室で、いすとか、つくえをひきずったりするからだと思います。

あまり新校舎をよごしたり、きずをつけるとながもちしないから、みんな注意しあつてきれいにしたらいいと思います。

わたしたちは三年生が終ると、鶴沼だい三小学校に行

ってしまいます。でもこの新校舎の思い出はきつとわすれないでしょう。

鶴沼だい一小学校にのこる子は、このすばらしい新校舎をもつと大せつにしてほしいと思います。

## けや木のはっぱ

二年 しばたあや子

私たちの、学校には、大きな、大きな、けや木の木が、二本、ゆうゆうと立っています。

一本は、古い校しゃのうらにありません。せが高く、上の方でお日さまの、光りをうけています。が、あまりめだちません。

でも、ようちえんが立ったため、切られてしまいました。もう一本は、あまり高くなく、太いえだにいくつも、わかれていきます。

これは、上のうんどう場にあるので、よくめだちます。春、入学してきた私は、けや木を見て、ただ「すこいな」と、思いました。

夏は、とても大きなかげを作ってくれます。そのとき私は、とてもよろこぶのです。

大きなかげの中に、はいると、とてもすずしいのです。秋になると、けや木ははっぱを、金色に光らせ、そのは

つばを、地めんにおとさせます。

そのはつばを、私たちが、ひろうのです。私はいくらひろっても、きれいにならないので、「こんな木はじやまだ。」と、思うときがあります。

地めんにまいおけると、はつばは、こがねいろにかわります。

上にあるときは、お日さまの光りで、金色に見えるのです。

雪が、つもるときなどは、とてもきれいです。

それは、はだかんぼうの、けや木に雪がかぶって、まるで、ばあつと白い花が、さいたようでした。

はじめて見たので、よけいにきれいなのだらうなと思います。

この年も、見たいと思います。

このけや木は、うぬまだい一しよう学校に約七十年前に、うえられたそうです。

このけや木は、私たちがまだ、うまれていないときから、立っているのです。

私は、このけや木が大すきです。

けや木は、いきているのです。

もっともつと、この学校の庭でながいきしてください。

ならないかと、まい日、しんばいだ。みんなも、いっしよだらうか。

でも、でんきが六つもついた。あわせて九つになった。いろがみや花できれいに、かざった。

くすだまをわって、たのしみかいても、やった。

みんなのまえで、げんきよく、おはなしも、できるよ

うになった。

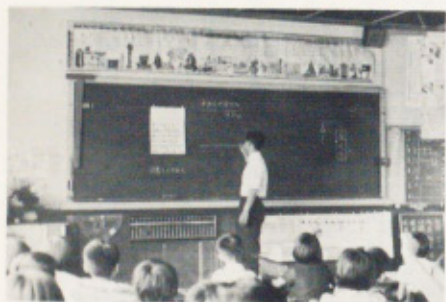
あかるいきようしつになった。

みんなげんきで、なかよしだ。

このきようしつは、もう、百年も、たっているのかなあ。

そのあいだに、どんなことがあったのかなあ。

こわすのは、かわいそうだ。



授業風景



授業風景

## ぼくらのきようしつ

一年 やまうちしげゆき

ぼくらの、きようしつは、ほろっこいふるいこうしやだ。

あながあいた、てんじようから、ほこりがおちてきた。ガラスどを、あげようとしても、あかなかった。ちからをいれて、あけたら、ガラスがおちてきた。

あめがもって、バケツにおちた。ポタン、ボン、チンと音がした。

べんきようちゆう、となりのへやからおともだちのこえが、いっばいきこえた。

そうじのとき、ともだちの手や足に、とげがささった。べんきようちゆう、先生がいっしようけんめい、とげをぬいてやっていた。

うらに、ようちえんがたったから、まっくらに、な

た。三つのでんきをつけても、やつと字がみえるぐらいだ

った。

ぼくは、くらやみの中は、きらいだ。

せんぶ、でんきがきえると、こわかった。目がるくならんかなあーとおもった。

ぼくは、がっこうがたおれそうとおもう。したじきに

## 現在(昭和四十八年度)学校の現況

### 一、学校規模

教員数	教員		数
	養教	その他	
38	1	1	36
学年数	児童数		学年
	児童数	学級数	
	200	5	1
	190	5	2
	194	5	3
	192	5	4
	159	4	5
	186	5	6
	12	2	特殊学級
	1136	31	計

### 二、地域の実態

鶴沼地区は、現在大手住宅会社教社の手によって、団地造成が計画され、建設工事が進められつつある。すでに約五〇〇戸が完成し、入居されている。昭和五十二年には、戸数約八千三百戸、収容人口三万二千人という建設計画ときく。

そのため、住民の生活意識も急速に変化し、学校教育に対しても、その要請や期待が多様化してきている。そして、必然的に児童の日常における姿にもそれが反映し、本校の教育の課題を生み出している。

○子ども理解に、科学的客観的な裏付けが必要である。

○教材研究や専門職としての研修が充分でない。

○教科指導や生徒指導の効率を高める指導の改善が必要である。

○学習指導過程や個別指導の改善が必要である。

以上四つの窓から眺め、更に焦点化し、教育の今日的課題と併せて、本校の教育課題として必然的に、

- (1) ひとりひとりを育てる学年・学級経営の充実。
- (2) 学びとる喜びを持たせる学習指導の探究と実践。
- (3) 体位・体力の増進と安全教育の徹底。
- (4) 学校環境の整備と効率的な活用。
- (5) 教師の研修活動の充実。

### 四、保護者の従事する産業別

第一次産業	第二次産業	第三次産業
農業・林業など	建設業・製造業など	小売業・通信業など
% 11.4	% 35.5	% 53.1

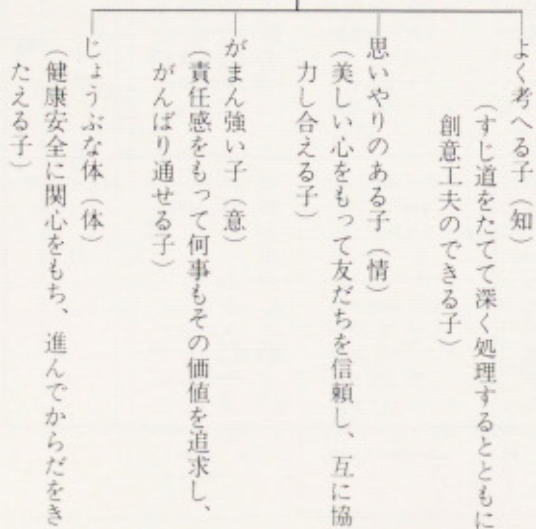
### 三、学校の教育課題

- (1) 激変する鶴一小校下の地域社会から
  - 地域差から生じる問題が多い。
  - 学校のマンモス化により学校教育上の問題が多い。
  - 家庭生活の在り方に問題が多く、家庭教育改善の必要がある。
- (2)
  - 基本的な生活習慣の指導の修正の必要がある。
  - 児童の学校生活における姿から
  - 学校・学級に対する所属感や連帯感がうすい。
  - 物を大切にしたり、からだを使って働く態度ができていない。
  - 学習技術が身につけていない。また、知能学力の相関関係にずれが多い。
- (3) 体位(胸囲) 体力(跳力) などが全般的に劣る。学校経営上の諸問題
  - 大規模校として、教育実践上の職員の共通理解が容易でない。
  - 効率的な学年・学級経営が望まれる。
  - 校舎の建築途上であり、学校環境の整備が必要である。また、施設・設備が不足し、合理的な管理と効率的な活用が必要である。
- (4) 教師の指導性から

### 五、教育目標

- (1) 人格の完成を旨とし、地域や児童の実態及び前年度の反省を考え合わせ、さらに県・市の教育方針・重点などから実践力のある創造的・民主的な社会人の育成につとめる。

### 進んでやりぬく子



学年		1・2	3・4	5・6	基
内容	強さ	・経験から出て経験に生かされるように話をする	・身についた内容で話す。	・根拠をもった話をする。	3・4年に同じ。
	基本的な構え	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いが、らくにできるように話しやすい雰囲気にする。</li> <li>発言をゆずり、とりあいをしない。(基本的ルール)</li> <li>話せるという自信をつける。</li> <li>だかいに相手のことを認め合い、話しやすい雰囲気にする。</li> <li>聞き直し、つけ足しがすなおに活発にできるようにする。</li> </ul>			
美しい心をもって友だちを信頼し、たがいに協力できる子。		・だれとでも仲よくすることができる。	・友だちのよいところや立場をみとめ、だれとでも協力ができる	・友だちをたがいに信頼し。 ・明るい学校づくりにつとめることができる。	3・4年に同じ。
		・友だちのいやがることをしない。 ・友だちを仲間にさそうことができる。	・いつもはきはきした行動がとれる。 ・人のためになることを進んでする。 ・助け合ってグループ活動ができる。	・人のあやまちをゆるす。 ・人が困っていたら手伝う。 ・人の立場を考えてできる。	3・4年に同じ。
責任感をもって、何事もその価値を追求し、がんばり通せる子。		仕事や勉強を、最後までやることができる。	よいと思ったり、考えたことを最後までやることができる。	自分が正しいと信じたことを進んで実行し、最後までやり通すことができる。	3・4年に同じ。
		・自分のことは、自分でする。 ・仕事をきちんとやり終わったら知らせる。	・目標をたてて最後までできる。 ・みんなで決めた約束やきまりを最後まできちんと守る。	・自分のことばや行動に責任をもつ。 ・よい考えを出し合い、ねばり強くやりとげる。	3・4年に同じ。
健康に関心をもち進んで身体をきたえる子。		元気に遊び、正しい姿勢を身につけることができる。	学校の施設・用具を生かし、体力づくりにはげむことができる。	自分の身体を知りめあてをもって、体力づくりにはげむことができる。	3・4年に同じ。
		・外へ出てみんなと遊ぶ。 ・しせつ、用具を正しくつかう。 ・こしかけた姿勢立った姿勢、歩く姿勢一背すじをのばす。	・毎日施設・用具を使って遊ぶ。 ・施設・用具をきまりよく使う。 ・約束やきまりを守り、進んで運動に参加する。	・体力をつける遊びをくふうしてみんな遊ぶ。 ・施設・用具の活かし方を工夫して使う。 ・発育や健康の状態を知り、気力をもって自分の体力をつくる。	3・4年に同じ。

基	6・5	4・3	2・1	学年		内容
				深さ	広さ	
1・2年に同じ。	進んで問題にとりくみ、すじ道をたててよく考え、友だちとの話し合いがうまくできる。	自分の考え方をもち、友だちと考える合ったり調べ合ったりできる。	みんなの中で話せたり、人の話を最後まで聞くことができる。	すじ道をたててよく考え、処理するとともに、創意工夫のできる子。	教 育 目 標	話 す 能 力
1・2年に同じ。	○じっくり考えて話す。 ○相手の話をとり入れて、より深い話をする。	○相手の考えがわかって話す。 ○調べ直してから話す。	○しまいまでははっきり話す。 ○順序にしたがって話す。	深 さ		
3・4年に同じ。	○いろいろな角度から考えて話をする。	○ひろがりのある話し合いをする。	○いろいろな生活や学習を生かして話す。	広 さ		

## 本年度の重点

- 一、ひとりひとりを育てる学年・学級経営の充実。
  - より多面的な面からの児童理解につとめる。
  - 学年・学級の協業を重視し、規律正しい活気に満ちた学年・学級づくりにつとめる。
- 二、学びとる喜びを持たせる学習指導の探求と実践。
  - 学習のしかたがわかり、能力に応じた学習への取り組みができるようにする。
  - 教材研究の充実をはかり、資料・機器を効果的に活用した指導過程のくふうをする。
- 三、体位・体力の増進と安全教育の徹底。
  - すすんでたくましい体位・体力づくりや根性を持つてやりぬく力を育てる。
  - ひとりひとりが交通安全や事故防止に、すすんで注意する実践力を育てる。
- 四、学校環境の整備の効率的な活用。
  - 学校建築完成の年にあたり、整備された学園づくりにつとめる。
- 五、施設の研修活動を有効に活用するとともに、合理的に管理するようにつとめる。
  - 施設の研修活動の充実。

○研修会・主題研などを通して、専門職としての教育的  
識見、教育技術の向上につとめる。  
○教育の今日的課題の究明をはかり、また、教育工学  
についての知識・技術の獲得につとめる。

## 研究主題

- 1 研究主題  
生き／＼とはたらかせる仲間づくりをめざした  
学年・学級経営。
- 2 主題設定の理由  
加速度的な物質文明、機械文明の高度化とともに、一  
方では社会機能の細分化と社会機構の複雑多岐化が進み  
人間の否定、人間疎外が叫ばれている今日の、現状であ  
る。本校においてもそれらの影響は否定できず、深く考  
えることを嫌う傾向や知的労働を讃美し、汗して働くこ  
との尊さを忘れ、受験制度からくる知育偏重の考えが根  
強い大人の考え方から、その影響を大きく受けながら成  
長している。その具体的な現われとして、子どもたちは、  
1 個人的な立場でしかものが考えられず、相手の立場  
に立って考えられない。  
2 他との関係を多くの場合、敵対的競争関係において  
とらえがちである。  
3 みんなでやりぬく気力・努力・経験が乏しく、だれ

かに依存しがちである。

4 自分をとりまく班や学級は、自分を高める母体であ  
るという意識に乏しい。

5 自分は認められようと努力するが、仲間とともにと  
いう考えがうすい。従って、私たちは、こうした孤  
立化・分散化の傾向を打破し、連帯意識を高める指  
導を願って主題の設定をした。すなわち、子どもた  
ちは何を求め、何を悩んでいるかを深く知り、それ  
を掘りおこし豊かな好ましい人間関係を学級集団、  
ひいては学校全体の中に確立するために、生き／＼  
と働きかける子どもを育てたいのである。

また、研究の歩みからは、過去三ヶ年間は、道徳  
教科に視点をあててきた。学校における生活の基盤  
である学級は道徳、教科、特活三領域の統合の場であ  
り、望ましい人間関係拡充の場である。その考え  
から今年の特活の領域にウエイトのかかる学級づく  
り、係活動に焦点をしばって研究を深めることにし  
た。

## 研究推進の具体的計画

- 低・中・高学年別の研究部をおき、これを研究の中  
核として研究を推進する。
- 各研究ごとに主題にせまる研究課題を設定し、実践

を通して課題を追求していく。

○授業を中心とした全体研究会をもち、全校的な研究  
に応じるよう、交流を行なう。

○研究の目標に達し、何らかの成果が生み出せるよう  
指導仮説を立て、実践資料の累積を行なっていく。

○低・中・高学年部会

○各部毎に年間2回、課題追求を中心とした授業を行  
ない実践をもとに研究交流をはかる。

○月一回の研究日を設定し、共通主題、個人課題にせ  
まる問題点の解明、追求を行なう。

○学年研究会を共同研修の場とし、事前研究を深める。

○学年別研究主題

○低学年部会―話し合い活動を通して

○中学年部会―話し合い活動を通して

○高学年部会―係り活動を通して

生き／＼と働  
きかける。仲  
間づくりをめ  
ざした学年・  
学級経営。

○全体研究会

○年間六回の全体研究日进行、研究主題にもとづく  
研究授業を行ない、実証的な研究の場とする。

○研究と実践とを並列に考え、理論の裏付けをもった  
実践を行なう。



月別研究計画

9	8	7	6	5	4	月
実践交流、指導仮説の修正 (高学年部会)	問題点および実践結果の反省と整理。	実践交流と問題点と解明 (中学年部会)	実践発表と問題点の提示 (低学年部会)	各部研究計画と指導仮説の交流・検討。	研究年間計画 研究の組織づくり	全体研
学年別研究会。		学年別授業研究。	学年別研究会。	研究内容、方法等に関する具体的計画。	主題設定と指導仮説の設定、研究計画。	部内研
3	2	1	12	11	10	月
来年度研究テーマの集約とその方途。	来年度の研究の方向。	残された問題点の検討。	研究成果のまとめと反省。	研究の中間発表。	実践、研究の交流と深化	全体研
	学年別研究会。	学年別研究会。	学年別研究会。	学年別研究会。	学年別授業研究。	部内研

学校運営機構

